



Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

ANNUAL REPORT 2019

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL OSAKA





善



Striving for

the International City OSAKA

Where the ZEN Circulates



善が循環する
国際都市
with OSAKA

～他に善かれかしの精神で世界を変える～

CONTENTS

- 02 青年会議所とは
- 03 大阪青年会議所の歴史
- 04 理事長所信
- 06 2019年度 組織図
- 08 理事長挨拶
- 09 直前理事長挨拶
- 10 役員挨拶
- 13 MIRAI KAIGI
- 15 2019年度年間実施事業報告
- 17 会員開発特別委員会
- 21 未来の「善」創造室
- 24 次世代教育推進委員会
- 25 子どもの創造力育成委員会
- 26 大阪の「善」創造室
- 30 次世代都市デザイン委員会
- 31 都市ネットワーク構築委員会
- 32 世界の「善」創造室
- 36 共通価値発信委員会
- 37 世界市民育成委員会
- 38 涉外室
- 43 国内涉外委員会
- 44 国際涉外委員会
- 45 総務室
- 50 総務特別会議
- 51 会員資質向上委員会
- 52 広報戦略委員会
- 53 年間月例会
- 54 2019年度褒賞
- 55 広報制作物媒体
- 56 メディア掲載情報
- 57 編集後記

青年会議所とは

about Junior Chamber International

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所(商工会議所法制定とともに青年会議所と改名)設立から、日本の青年会議所(JC)運動は始まりました。共に向こうし合い、社会に貢献しようという理念のもと、1950年には大阪青年会議所が国内で2番目に創設され、日本JCという国家青年会議所を設立するための重要なメンバーとして関わっていきました。また各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所(日本JC)が設けられました。

現在、全国に青年会議所があり、三つの信条(トレーニング「個人の修練」、サービス「社会への奉仕」、フレンドシップ「世界を結ぶ友情」)のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革などの社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所(JCI)のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。

JC 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱 領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう。

SDGs推進宣言

日本の青年会議所はSDGs達成に向けた運動を
推進することを宣言する

日本の青年会議所は、2004年から国連ミレニアム開発目標UN MDGs達成にむけた運動の歴史があり、2015年11月に開催されたJCI世界会議金沢大会の総会において、各国家青年会議所の会頭と共に、国連の掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて積極的に取り組んでいくことを表明する「金沢宣言」を採択しました。この採択により、全国各地でSDGs推進の気運が高まり運動が広がってきたなか、2030年のSDGs達成にむけて、今まで以上に公益社団法人日本青年会議所と各地会員会議所の連携を強め、外部のパートナーと共に、地域をより良く変え、地球規模課題の解決を加速させていく必要があります。

JCIが SDGs を推進する意義

恒久的世界平和の実現を目指す組織であるJCIにとって、SDGsは地球規模課題を明確にしたものであり、その解決は自由で開かれた包摂的かつ持続可能な未来社会へつながっていきます。

日本の青年会議所が推進する意義

青年会議所は明るい豊かな社会を築き上げるために、全国各地で社会課題を解決すべく運動してきました。この運動をSDGsにより可視化することで未来は見える形となり、目指すものを多くの人々と共有することができます。SDGsの達成に向けた運動は、社会の改善から経済の持続的な発展につながります。

大阪青年会議所の歴史

The history of Junior Chamber International



整肢学院児童招待 ドライブ



淀川マラソン

1957
「整肢学院児童招待ドライブ」を開始

1950
大阪青年会議所創立
1951
日本青年会議所創立

1962
「JCI アジアコンファレンス」を大阪にて開催

1970
万国博野外劇場施設及び参加催物の提供
1974
淀川改修100年を記念して「淀川100野外祭」を開催

1974-83
「淀川マラソン」を実施

1980
「JCI 世界会議大阪大会」を開催
1980-89
「国際シンポジウム」を開催



わんぱく相撲

1980-
「キッズスワップ(交換ホームステイ)」を開始
1981
「TOYP(The Outstanding Young Person)大阪会議」を開催

1985-

天神祭「船渡御」への能、文楽、歌舞伎船での参加
1990-93
「エスノポップイン大阪(アジアの音楽祭)」を開催

1995

阪神淡路大震災における組織的支援活動
国連広報局よりNGOとして承認

1997

「ふれ愛ピック大阪後夜祭」を実施
第33回全国身障者スポーツ大会の後夜祭を運営。
多くの市民の皆さんと感動を共有

2000

大阪JC 創立50周年記念植樹「大阪JC 実りの森」を実施

1982
「わんぱく相撲」を実施

1986
「Save The Children Japan (SCJ)」設立 (大阪JCが中心となって設立)

1992
「地球市民大阪ひろば (市民参加型集約事業)」を実施

1996
「大阪NPOセンター」設立 (大阪JCが中心となって設立)

「大阪モデル国連会議(OMUN)」開催

1998
「第2回世界遺産国際ユースフォーラム1998」を開催

2001
「日本JC 第50回全国会員大会大阪大会」を開催

2003
次世代教育推進事業「根っ子学校」設立提言

2005
「大阪市長選公開討論会」実施

『もうあきまへん浪速独立宣言』出版

2007
社会人講師を学校に派遣した

「フレ愛応援団事業」実施



第65回 JCI 世界会議 大阪大会



大阪JC 創立65周年記念式典

2011
「大阪JC 創立60周年記念式典・祝賀会」開催

2010
「大阪JC 創立60周年記念式典・祝賀会」開催
「第65回 JCI 世界会議」を大阪にて実施

2012
「第67回 JCI 世界会議 台北大会」でプロンペンJCとシスターJC 締結

2014
一般社団法人へ法人格を移行

2016
18歳選挙権解禁に伴うULTRA VOTE PROJECTの開催

2013
淀川「花は咲く」プロジェクト実施
2015
「大阪JC 創立65周年記念式典」開催

2017
マチミラOSAKA2017の開催

2018
大阪市への公開提言の実施
万国博覧会の開催決定

2019
SDGs MIRAI KAIGIの開催
GLOBAL YOUNG ACADEMY OSAKAの開催
MIRAI防災リーダーズの開催
SDGs甲子園×TOYPの開催

善が循環する 国際都市 大阪の実現

～他に善かれかしの精神で世界を変える～



一般社団法人 大阪青年会議所 第69代理事長
小嶋 隆文

“破壊と創造の神シヴァ”古代インドに伝わる真逆の性質を併せ持つ神の名です。破壊と創造、これは一見すると矛盾する性質にも思えますが、大自然の営みはその連続に他なりません。私たちを支えるこの大自然が引き起こすひとつの現象が、人類にとっては災害という破壊の形であったとしても、地球をはじめ生きとし生けるものはすべてを受け止め、新たな創造を繰り返してきました。日本人は古来より、大自然の営みの中に八百万の神々を見出し信仰する中で、我が国特有の豊かな精神性を育んできました。あらゆる事象をまずは受け止め、すべては善きことと捉えるしなやかさもそのひとつです。ものごとが存在し得るということは、そこには目には見えない均衡と調和があります。森羅万象に調和と共存をもたらす働きによって私たちが生かされているように、他を自然と成り立たせようとする精神、それこそが“善”です。

はじめに

明治から大正という時代の変わり目に、大阪はいち早くイギリスで起こった第1次産業革命後の最先端技術を取り入れ、経済規模を急激に拡大させたことで「東洋のマン彻スター」とその名を世界に轟かせました。見知らぬものや異なる価値観を受け止める大阪ならではの大らかな気質が日本人の柔軟で勤勉な精神性に重なり、大阪を世界の大阪へと飛躍させたのです。

平成から新しい時代を迎えようとしている今日、データを支配するものがすべてを掌握するデータイズムの台頭とともに、AI、AR、VR、5G、ブロックチェーンといったテクノロジーによる第4次産業革命ともいべき「デジタルエコノミー時代」が幕を開けようとしています。一方で、世界有数の課題先進都市ともいえる大阪は、超高齢化社会の到来や、貧困率の上昇、学力や自己肯定感の低下、そして災害に対する都市防災システムの脆弱性など様々な課題を抱えています。長きにわたる常

識が覆されるほどの時代の変革期に生きる私たちは、目前に突き付けられたあらゆる変化を清濁併せ呑むがごとく受け止める柔軟な気質でこの変革期を乗り越えなくてはなりません。

また、世界では、個の権利の最大化を追い求めるナショナリズムが台頭し、批判的かつ排他的な民主主義が“是”とされるような風潮が蔓延しています。しかし、私たちは太平洋戦争の悲惨な経験から、個の限界と争いによる惨禍を充分に学んできました。境界線がないかのような新しい時代において、やみくもに境目を強調するのではなく、技術革新により驚くほど近くなった世界との距離を肌で感じ取り、東西二極としての大阪ではなく、アジアにおける大阪、世界における大阪として、個と個、都市と都市、地域と地域、国と国といったあらゆるレイヤーにおいて、他を自然と成り立たせようとする“善”が多層的につながり循環する国際都市大阪を実現しなければなりません。

未来を切り拓くチカラを育もう

AIやロボットが世界中で本格的に普及し、人間に代わって多分野の労働を担うであろう近い将来、これまでの教育で育ってきた組織の中の画一的な一員であることの存在価値はどのようにになっているでしょうか。未来を創造する人間として、感性と独創性を持ち合わせた「ひとり」であることの重要度が増していくことでしょう。そのような未来を生きていく子どもたちには、自らが経験を重ね、知識を得ることに加え、自分なりの解釈や発想を周りの人たちと連携を重ねながら磨き上げ、他も含めた大きな視野で行動するチカラが必要です。

私たち大人は、自らの固定概念の枠にはめて子どもたちの可能性を奪うのではなく、見知らぬ新たなものを好奇心で受け止め、臆せず自由闊達に挑戦することで経験と知識を積み重ねることができる環境を与え続けなければなりません。また、画一的な教育ではなく、一人ひとりの個性を見出し、自分らし

さとそれらを互いに尊重し合い他を思いやる心を育んでやらなければなりません。さらに、自らの子だけではなく、他に善かれかしの精神で学びの機会の不平等と不公正を解消し、社会が一丸となって次世代を育む取り組みを推し進めていかなければなりません。

私たちは、あきらめることなく挑戦し続け、他を受け止めて慮りながらも自らの意見を発信し、未来への大きな夢と希望に満ちあふれた、未来を生きる子どもたちのチカラを、まずは大人が他に善かれかしの精神で社会一丸となって育み、互いが互いに成長の連鎖をもたらす、“善”が循環する国際都市大阪を実現します。

攻めと守りの国際都市大阪を創り上げよう

2019年の日本初開催となるG20やラグビーワールドカップをはじめ、2021年にはワールドマスターズゲームズの開催、さらには日本再興の急先鋒ともいえる統合型リゾート開発など「大阪・関西」には、世界からことのほか大きな期待が寄せられています。一方で2018年6月の大阪北部地震や同年7月の西日本豪雨災害は、いつ起こるとも知れない南海トラフ大地震に対する都市災害対策の脆弱性に警鐘を鳴らしてくれました。日本、そして大阪は戦後アジアでいち早く復興を遂げ発展を果たしました。大阪は、成熟した都市ならではの貴重な機会を逃すことなく活用して成長につなげ、同時に様々な課題に正面から向き合うときを今まさに迎えています。その成長と解決のために必要なものは、大阪に関わるすべての人の揺るぎない意志と力強い行動力に他なりません。シニアも女性も若年層も、個人も組織も、一人ひとりが常に他に善かれかしの精神を胸に、まちや国、世界の未来を考え、課題の大小にかかわらずより良い大阪を創る主体者として、社会的な役割と責任を果たすことが求められているのです。そうすることで世界から注目されている大阪の魅力を発信する力は強くなり、人材や情報、資金が自然と集まり、有機的な連携が拡大され、大阪ブランドは徐々に確立されていくでしょう。

私たちは、大阪とその未来に対する当事者としての想いを発露させ、揺るぎない意志へと昇華させ、斬新なアイデアと未来志向の発想で世界と渡り合い、立場の違いを越えた他に善かれかしの精神で連携し、大阪の内外を巻き込み、“善”が循環する国際都市大阪を実現します。

多様な他を活かす“善”を拡げよう

トランプ大統領によるナショナリズム政策の常態化、イギリスのEU離脱やEU諸国の財政破綻、難民問題、アジア諸国の台頭と国際情勢がますます複雑化する時代の到来は、ある意味ではグローバリズムの終焉の合図でもあり、富める者はますます富み、貧しい者はますます貧しくなっていくという最悪の事態を地球レベルで招いています。しかし自国の利益だけを優先すれば、その先には価値観の違いを理由にした国と国との陣取り合戦が待ち受けていることは人類の歴史から鑑みても明らかです。むしろ物理的にも情報的にも諸外国との距離が近くなった現代だからこそ、地球全体をひとつの集合体と捉え、この地球を世界の人びと手と手を携えて次世代に引き継ぐとい

う責務をあらためて認識しなければなりません。

そのために、日本人のアイデンティティでもある豊かな精神性で、それぞれの風土や伝統、文化や宗教などの多様な価値観を受け止め、他に善かれかしの精神をもって、共通の未来を想い描くことのできる関係性を築いていかなければなりません。大阪だけではなく、アジアや世界に視野を拡げ、知見にとどまらず人・モノ・金・情報などの成長エネルギーを外から大胆に取り込み、同時に内外にそのエネルギーを波及させ、共に豊かな未来を切り拓いていかなければなりません。

私たちは、多様性を寛容に受け止め、他を自然に成り立たせて自身の存在を生み出す“善”的精神と新たな価値を創造する使命感と情熱を備え、世界という大舞台でその力をいかんなく発揮し、誰ひとり取り残すことのない調和を生み出す世界市民を世界中に創り出し、“善”が循環する国際都市大阪を実現します。

“善”的循環の推力を担う大阪青年会議所であり続けよう

“吾々はこの自から以て誇りとなす青年の意気と情熱を確信して、互いに団結し、相援け相いましめ、その知性の向上と将来に於ける指導力の養成に努める。”

およそ70年前、大阪青年会議所の設立趣意書にしたためられたこの一文は、普遍の輝きを放ち続け私たち青年のあるべき姿を示し、果敢に挑戦する勇気を与え続けています。青年はいつの時代も時流をつかむ柔軟性と時代を動かすエネルギーを最大限に発揮しなければなりません。青年である私たちが持ち合せているもの、それは、先人たちの血と汗によって長きにわたりあたかも縦糸と横糸のように織りなされてきた信頼と実績、その上に成り立つ縦横無尽に拡がるつながり、そして1000名を超える唯一無二のメンバー一人ひとり。これらを最大限かつ相乗的に活用してより大きく力強くし、他に見ることのないプロボノ集団として、社会から託された青年経済人としての責務を全力で果たさなければなりません。青年らしく情熱的かつ機動的に社会実験的な取り組みにも果敢に挑み、たとえそれがうまくいかなくても学びを得ることで次に活かすことができます。そして、まずは私たち自身が、挑戦し続ける揺るぎない意志と力強い行動力、さらには未来を拓く知性とリーダーシップを備えた人間となり、組織や大阪、地域や国の枠を越えてその輪を少しづつ大きくすることで、一人ひとりの心の奥底に宿る“善”を循環させる推力としての役割を果たし続けます。

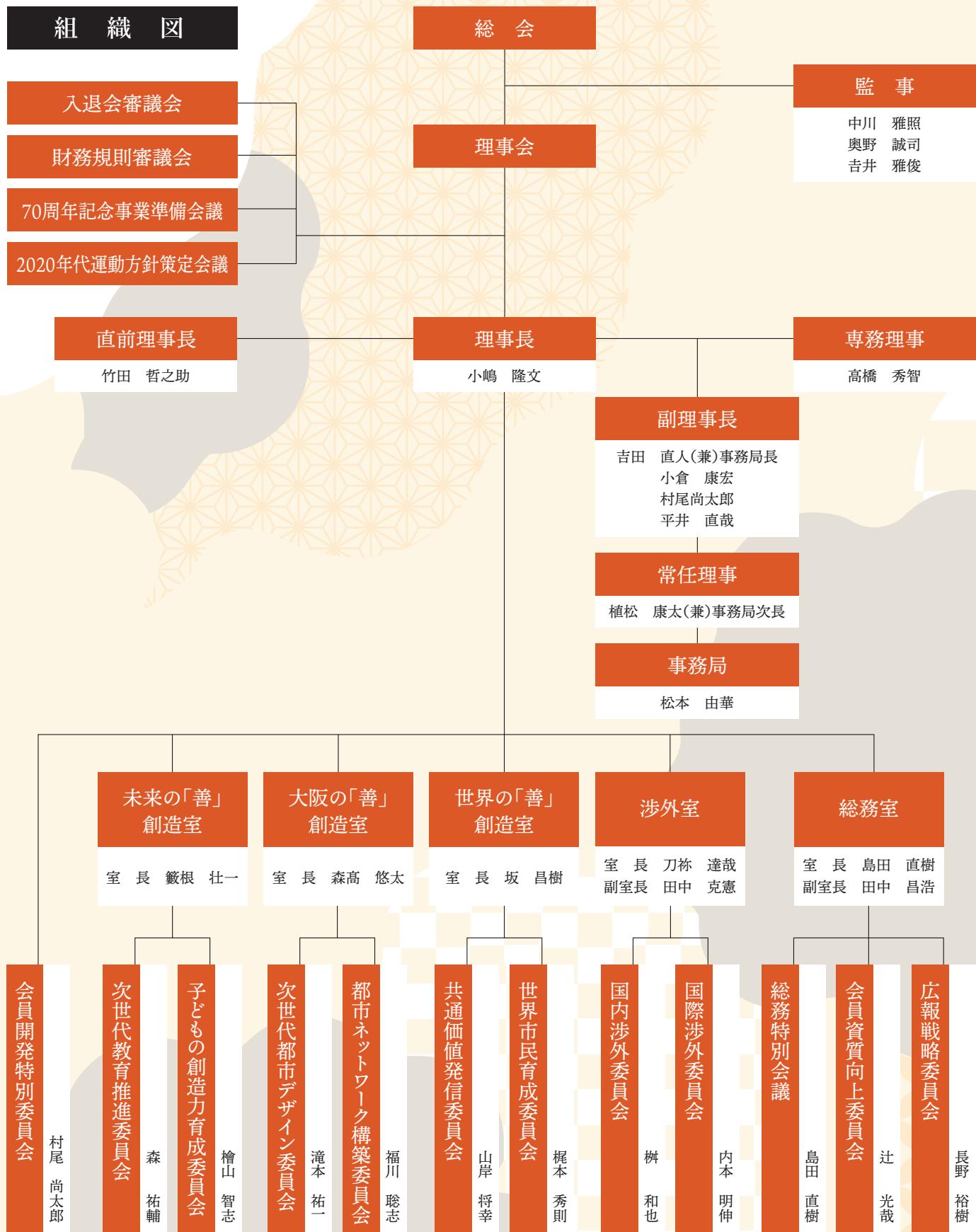
“善”、それは森羅万象に調和と共存をもたらす秩序。

まずはたった一人、最も身近な人に対して他に善かれかしの精神で行動してみようではありませんか。そして常に自らに問いかげようではありませんか。

私にとってどう善いのか?ではなく、
私たち、生きとし生けるものにとって、どう善いのか?
そして、
そこに“善”はあるのか?と。

善が循環する国際都市大阪の実現

～他に善かれかしの精神で世界を変える～



会員開発特別委員会		1. 新入会員の拡充 2. 新入会員の指導育成 3. 整肢学院児童レクリエーションの企画と実施 4. なにわ淀川花火大会の運営への協力 5. 理事選挙への参画
未来の「善」創造室	次世代教育推進委員会	1. 次世代教育推進事業の企画と実施 2. 大阪城トライアスロン2019の運営への協力 3. 新入会員の拡充 4. 理事選挙への参画
	子どもの創造力育成委員会	5. 子どもの創造力育成事業の企画と実施 6. 新入会員の拡充 7. 理事選挙への参画
大阪の「善」創造室	次世代都市デザイン委員会	1. 次世代都市デザイン事業の企画と実施 2. 新入会員の拡充 3. 理事選挙への参画
	都市ネットワーク構築委員会	4. 都市ネットワーク構築事業の企画と実施 5. 新入会員の拡充 6. 理事選挙への参画
世界の「善」創造室	共通価値発信委員会	1. 共通価値発信事業の企画と実施 2. SDGs推進事業の企画と実施 3. 新入会員の拡充 4. 理事選挙への参画
	世界市民育成委員会	5. 世界市民育成事業の企画と実施 6. 新入会員の拡充 7. 理事選挙への参画
渉外室	国内渉外委員会	1. 日本JC事業への参加促進及び支援 2. 日本JCへの出向者支援及び連絡調整 3. LOM間交流の交流 4. 出向者セミナーの企画と実施 5. 新入会員の拡充 6. 理事選挙への参画
	国際渉外委員会	7. 国際渉外事業の企画と実施 8. JCI事業への参加促進 9. JCIへの出向者支援及び連絡調整 10. ASPACチエジュ大会への支援 11. 世界会議エストニア大会への支援 12. 新入会員の拡充 13. 理事選挙への参画
総務室	総務特別会議	1. スタッフセミナーの企画と実施 2. 池田会議の企画と実施 3. 総会運営に関する準備と調整 4. 理事会運営に関する準備と調整 5. 財務規則審議会運営に関する準備と調整 6. 定款諸規則の整備 7. 事務局機能の充実 8. 新入会員の拡充 9. 理事選挙への参画
	会員資質向上委員会	10. 会員資質向上事業の企画と実施 11. 月例会の企画と実施 12. OB現役交歓会の企画と実施 13. 会員大会の企画と実施 14. 新入会員の拡充 15. 理事選挙への参画
	広報戦略委員会	16. 広報戦略事業の企画と実施 17. 新年名刺交換会の企画と実施 18. 対外・対内広報の実施 19. 褒章事業へのエントリー調整 20. 対外パートナーとの広報連携 21. 広報ミーティングの準備と実施 22. 新入会員の拡充 23. 理事選挙への参画

理事・役員一覧

理事長	直前理事長	副理事長	副理事長	副理事長	副理事長	専務理事	監事	監事	監事
小嶋 隆文	竹田 哲之	吉田 直人	小倉 康宏	村尾 尚太郎	平井 直哉	高橋 秀智	中川 雅照	奥野 誠司	吉井 雅俊
常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	理事	理事
篠根 壮一	森高 悠太	坂 昌樹	刀狩 達哉	田中 克憲	島田 直樹	田中 昌浩	植松 康太	森 祐輔	檜山 智志
理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事
滝本 祐一	福川 聰志	山岸 将幸	梶本 秀則	樹 和也	内本 明伸	辻 光哉	長野 裕樹		

理事長挨拶



一般社団法人 大阪青年会議所
第69代理事長

小嶋 隆文

Ryubun Kojima

平素より、一般社団法人大阪青年会議所の活動に対し、行政、企業、教育機関、団体、市民の皆様にご理解、ご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

本年度は、「善が循環する国際都市大阪の実現～他に善かれかしの精神で世界を変える～」をテーマに、未来を切り拓くチカラを育もう、攻めと守りの国際都市大阪を創り上げよう、多様な他を活かす“善”を拡げようの三つの柱を軸に、活動を展開して参りました。

本年も昨年度に引き続き、国連が掲げます持続可能な開発目標のSDGsを広く市民に知るために8つの事業を開催させていただき、その全ての事業にSDGsのゴールナンバーを設定し、普及をして参りました。

2025年に開催されます大阪・関西万国博覧会に向けて、SDGsの認知・推進は、今後のまちの発展に大きく寄与していくこととなると私たちを考えております。

本年は、6月に開催されましたG20の前に、SDGsの認知向上を目的とした集大成事業として MIRAIKAIGI を開催し、先進的な都市としての在り方を世界に示すことができました。

来年は、一般社団法人大阪青年会議所も70周年という節目を迎える中、いよいよオリンピックが日本で開催をされ、私たちが住み暮らすまち大阪もさらに活気に満ち溢れることになります。

この本年來年と続く絶好のチャンスを逃すことなく、まちの発展につなげていける活動をこれからも展開をして参ります。

本年度の活動に対し、多くのご支援をいただきました皆様に心よりの感謝を申し上げますと共に、2020年度の大坂青年会議所への本年度以上のご理解とご協力をお願い致します。

常に自らに問いかけよう
善の精神で世界を変えるために

直前理事長挨拶



一般社団法人 大阪青年会議所
直前理事長

竹田 哲之助

Tetsunosuke Takeda

2018年11月に2025年の国際博覧会の開催が決定し、ラグビーワールドカップの開催や、国内初となるG20国際サミットの開催など、国内だけでなく世界からも注目を集め、機運高まる大阪において、2019年度一般社団法人大阪青年会議所は小嶋隆文理事長の下、「善が循環する国際都市大阪の実現」を掲げ政策・運動を展開しました。

本年度も昨年度に引き続き、国連の掲げる持続的な開発目標(SDGs)を運動の軸に掲げ、公益社団法人日本青年会議所と外務省の「SDGsパートナーシップ宣言」や、全国の会員会議所との「SDGs推進宣言」のもと、日本で1番SDGsを推進する団体の中心として「MIRAIKAIGI」など8つの事業を実施しました。

その成果が認められ、2019年末には、日本青年会議所として外務省ジャパンSDGsアワード「SDGsパートナーシップ賞」を受賞することができました。全国の青年会議所のSDGs推進運動において、大阪青年会議所として大きな役割を果たすことができました。

平成から令和という大きな時代の転換期を迎える中、「BREAK THROUGH OSAKA」の実現をめざした2018年度から、大阪の企業、行政、関係諸団体、市民の皆様とのパートナーシップをより強固なものとし、大阪から日本へ、日本から世界へと国際都市大阪の存在感を強く力強く発信できたと確信しております。

2010年代の運動方針に定められた、「公」「敬」「創」という不変の価値観を紡いできた10年の集大成として、大阪青年会議所としても70周年の節目を迎える2020年という新たな時代へバトンを繋ぐことができました。

本年度、善が循環する国際都市大阪の実現にご支援とご協力をいただきました、すべての皆様に深く感謝を申し上げるとともに、2020年度も大阪青年会議所に対しまして本年以上のご指導、ご鞭撻、ご支援、ご協力をお願い致します。

役員挨拶



副理事長 兼 事務局長
吉田 直人
Naoto Yoshida



常任理事 兼 事務局次長
植松 康太
Kota Uematsu

本年度は、小嶋理事長が掲げる「善が循環する国際都市大阪の実現～他に善かれかしの精神で世界を変える～」をテーマに掲げ、1年間運動を展開して参りました。

また、1950年の設立から69年目となり、明るい豊かな大阪の実現に向けて、メンバーの活動しやすい環境作りを目指し、他に善かれかしの精神をもって、事務局運営をさせていただきました。

財務面や運営面では、一般社団法人として7年目を迎え、時代の変化に合わせた、新たなシステムの導入、会員費や各種登録費の決済方法、会員名簿整備事業や事務局体制強化、組織の資産で

ある会員拡充にも大いに取り組み、新たな時代に向けての組織の確立と財政基盤強化を図って参りました。

本年度、私たちの行ってきた運動が、2020年度以降の組織やまちに志が引き継がれ、大きく飛躍されることを祈念致します。

結びとなりますが、2019年度の一般社団法人大阪青年会議所の活動に対して多大なるご理解とご支援を賜りました関係各位に対し、心より感謝申し上げますとともに、2020年度も本年度同様ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



副理事長
小倉 康宏
Yasuhiro Ogura

本年度は、「善が循環する国際都市大阪の実現～他に善かれかしの精神で世界を変える～」をテーマに掲げ、未来の「善」創造室、次世代教育推進委員会、子どもの創造力育成委員会を副理事長として担当させていただきました。未来の「善」創造室では、「未来に成長の連鎖をもたらす善を育もう!」をテーマに、時代の変化の中で変化し続ける現状を捉え、未来を構成する一員として、互いに成長し合う関係の構築に取り組んで参りました。

これまでの価値観では見過ごしてきた子どもの個性を前向きに捉え、新たな職業やライフスタイル、人とは違った才能を評価する価値観を子どもが持つ同世代の大人にもってもらうことをめざして運動を推進して参りました。

また、恒例となるわんぱく相撲大阪市大会においても、今年度から始まった女子の部の全国大会に選手を輩出し、性別に関係なく

活躍できる、これから社会の在り方を見出して参りました。

そして、子どもが自らのチカラで大きな夢を抱き、実現していく創造力を養うため、非日常的な場所で、子ども同士だけで、様々な学びを得ながら、自分たちの個性を活かした社会課題の解決策を模索し、多くの大人の前で発表する事業を開催致しました。目覚ましい技術進歩のなか、子ども大人も互いに成長していくため、価値観のアップデートや、自らのチカラで生き抜いていく力を育み、予測困難な未来を切り拓いていくための社会環境の構築に大いに寄与したと確信しております。

結びとなりますが、2019年度の一般社団法人大阪青年会議所の活動に、関係各所の皆様から多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。



副理事長

村尾 尚太郎

Shotaro Murao

本年度は、「善が循環する国際都市大阪の実現～他に善かれかしの精神で世界を変える～」をテーマに掲げ、会員開発特別委員会を副理事長として担当させていただきました。平成から令和という期待感高まる新たな時代を迎えようとしている今日、世界からことのほか大きな期待が寄せられている大阪を牽引していくリーダーの育成に努めて参りました。大阪青年会議所は、40歳までという時間的制限のなか、地域や企業など、様々な場面においてのリーダーシップを発揮する能力を開発し、恒久的世界平和の実現に寄与する団体です。新陳代謝を繰り返し、常に時代に先駆けて課題解決にあたり、団体内外問わず、まちのための有機的かつ機動的なつながりを構築するためにはどのような人間であるべきなのか。公に尽くす組織の一員として、失敗を恐れず、積極果敢にまちの課題解決に取り組むことができる情熱あふれるリーダーとして、大大阪と呼ばれた都市の

再興を牽引するための指導力向上を目的とした研鑽の機会を数多く創り出しました。

本年度は、200名近くの新たな仲間を迎え、様々な事業を通して、仲間と切磋琢磨し、未来にむけて挑戦し続ける人材へと育成して参りました。また、国内外問わず数々の活動に積極的に参加を促し、世界との友情を培い、また、多くの企業団体とのコラボレーションを通じて、設立当初より受け継がれてきた創始の精神を再認識し、ただ時代の潮流に乗るのではなく、私たちは、それぞれが職をもちながら活動するプロボノ集団として住み暮らすまちを少しでも良くしていこうという気概を醸成して参りました。

結びとりますが、2019年度の一般社団法人大阪青年会議所の活動に、関係各所の皆様から多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。



副理事長

平井 直哉

Naoya Hirai

本年度は、「善が循環する国際都市大阪の実現～他に善かれかしの精神で世界を変える～」をテーマに掲げ、大阪の「善」創造室、次世代都市デザイン委員会、都市ネットワーク構築委員会、また、世界の「善」創造室、共通価値発信委員会、世界市民育成委員会を副理事長として担当させていただきました。大阪の「善」創造室では、「攻めと守りを兼ね備えた大阪ブランドを確立しよう！」をテーマに掲げ、世界から注目される現状を活かしつつも、自然災害をはじめとする社会不安の解消を目的として攻めと守りを兼ね備えた新しい大阪のブランドを確立する運動を推進して参りました。

次世代の都市の在り方を模索し、誰もが活躍する社会を目的とし、ジェンダーギャップ問題の解決に導くフォーラムや、今年度の最大の運動発信の場となりました、ミライカイギを株式会社宣伝会議との共催のもと、SDGsに対する市民の皆様の意識を高める事業を実施致しました。また、有事の際のネットワークの構築をめざし、地域社会を巻き込んだ防災、減災を実現する事業や、若者の政治参画

を促す事業を数多く展開して参りました。また、世界の「善」創造室では、調和を生み出す「世界市民」を地球全体に創り出そう！をテーマに掲げ、世界の持続発展を担う人材を多く輩出するため、SDGsを中心とした世界共通の価値を社業を通じて発信するセミナーを実施しました。

そして、これから世界を舞台に活躍する高校生を対象に、最新のビジネスモデルに触れ、社会に対する想いをビジネスへと昇華させるアカデミー形式の事業を開催致しました。時代の変革期にある国際社会において、新たな都市あり方や、世界平和の実現に向けた人類共通の価値観を大阪から広げていく土壤を構築し、都市の内外を巻き込んで新たな都市ブランドを発信し、世界に調和をもたらす大きなつながりを構築するに至ったと確信しております。

結びとりますが、2019年度の一般社団法人大阪青年会議所の活動に、関係各所の皆様から多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。



専務理事

高橋 秀智

Hidenori Takahashi

本年度は、「善が循環する国際都市大阪の実現～他に善かれかしの精神で世界を変える～」をテーマに掲げ、1年間組織運営に務めて参りました。

1950年の大阪青年会議所設立から69年目となる本年度は、戦後70年を過ぎた時代の中で、明るい豊かな社会の実現のために、未来を切り拓くチカラを育もう、攻めと守りの国際都市大阪を創り上げよう、多様な他を活かす“善”を拡げようを柱にメンバーとともに、未来へ向けて私たち一人ひとりが価値の根源であり続けることが出来るように、1年間運営をさせていただきました。

6月には、大阪青年会議所の全体集約事業として、MIRAIKAIGIを開催し、外務省、経産省にご後援をいただき、国連が掲げます持続可能な開発目標のSDGsを広く大阪の市民の皆様に発信し、認知向上ができたと確信しております。

財務面や運営面では、一般社団法人として7年目を迎え、これまでのシステムや考え方の抜本的な見直しや、組織力向上に不可欠な会員の拡充や指導育成に注力し、2020年に迎えます70周年に向けて、新たな時代に先駆けた運動を展開できる組織基盤の強化を図って参りました。

本年度、私たちの行ってきた運動が、2020年度以降の組織に引き継がれ、まちにさらなるインパクトを与える活動の原動力となり、地域や市民の発展に寄与されることを祈念致します。

結びとなります、2019年度の一般社団法人大阪青年会議所の活動に対して、多大なるご理解とご支援を賜りました関係各位に心より感謝を申し上げますとともに、2020年度も本年度同様に変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



監事

中川 雅照

Masateru Nakagawa



監事

奥野 誠司

Seiji Okuno



監事

吉井 雅俊

Masatoshi Yoshii

本年度は、「善が循環する国際都市大阪の実現～他に善かれかしの精神で世界を変える～」をテーマに掲げ、小嶋理事長の力強いリーダーシップのもと、未来に成長の連鎖をもたらす善を育もう、攻めと守りの国際都市大阪の実現、調和を生み出す「世界市民」を地球全体に創り出そうという各分野の目的を果たされました事を1年間通して確認して参りました。

また201名の新入会員拡充、150名を超える出向者の支援、月例会においてはメンバーが登壇し話す機会である「WITH」を全6回18名のメンバーが登壇しプレゼンテーションを行い、政策実現のための強固な組織構築につきましても確認して参りました。

未来の「善」創造室・大阪の「善」創造室・世界の「善」創造室の対外3室、渉外室・総務室の対内2室、そして会員開発特別委員会

がすべての事業で連動したことにより、すべてのメンバーの善が循環し、その循環が大阪に住み暮らす270万人へと伝わり、他に善かれかしの精神が世界を変えることにつながったことは、大きな成果であったものと考えます。

結びとなります、本年度掲げた政策の実現、そして各室が連動する強固な組織を構築できましたのも、ひとえにOB諸兄、行政をはじめとするカウンターパートの皆様、そして政策に共感いただき、事業へ参加若しくは参画いただきました大阪のまちに住み暮らす皆様のご協力があったからだと考えております。

心より感謝御礼申し上げますとともに、2020年度もより一層のご支援を賜りますよう、宜しくお願ひ致します。

SDGsを
楽しく学べる
体験型
イベント！



SDGs MIRAI KAIGI

未来をつくるソーシャルサミット for SDGs

～世界を変えるための17の目標を知ろう・触れよう・達成しよう～

“貧困や環境破壊などの様々な社会課題の解決のために、私たちができるることは—” 体験や学びを通じて持続可能な社会づくりについて考えるイベント「SDGs未来会議-未来をつくるソーシャルサミット」が、6月13日から15日まで大阪市内で開催されました。(主催:一般社団法人 大阪青年会議所、株式会社宣伝会議)。

「持続可能な開発目標(SDGs:エスディージーズ)」とは、世界が抱える様々な問題を2030年までに解決するために作られた世界共通の目標で、2015年9月の国連サミットで採択されました。世界中で、そして日本でも国や自治体、企業、NPOなどが様々な取り組みを始めています。

イベントでは、政府関係者や学識経験者らがSDGs達成に向けた取り組みや課題などについて議論するほか、企業や自治体の取り組み事例を紹介しました。また、次の時代を担う子どもたち向けに、展示や体験を通じて社会の様々な課題について考える場を提供しました。



未来をつくるソーシャルサミット for SDGs

2019.6.13^火-6.15^木 11:00-18:45
(6.15のみ17:45まで)

For BUSINESS タワーC 8階 ナレッジキャピタル
カウンターランスルーム

For FAMILY 北館1階 ナレッジプラザ



FAMI
FES
2019

FAMI FES 2019



トークステージ
by GENKING

人気タレント、GENKINGさんのキレイの秘密、さらには彼女の日常にある「SDGs」をエピソードを交えながら紹介しました。



若者サミット
～明日を話す～

進撃のノアさんと松本優さんをゲストに迎え、様々なパネリストと繰り広げる「選挙・政治」に関する熱い激論ステージ!



RAINBOW STAGE
～270万人総活躍～

主婦だって、社長だって、LGBTだって!誰もが自分の強みを生かして活躍できる社会ってどんな風に創るか、解決のヒントについてのステージとなりました。



大阪を中心にSDGsを叫ぶ!
～For Family with JC～

環境問題、科学実験、防災などをテーマにマジック、ジャグリングや実験を用いて、参加型実験・体験教室を行い会場のみなさんと一緒に盛り上げました。



SDGsこどもサミット



MIRAI防災リーダーズ

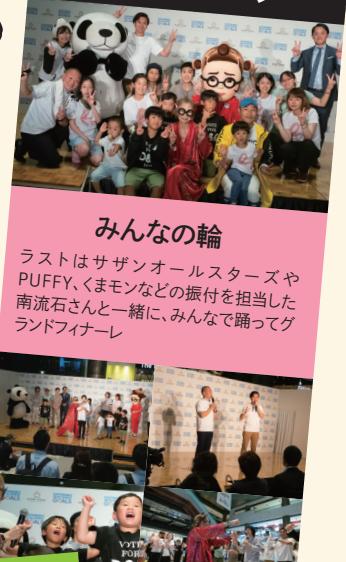


SDGs For FAMILY

運営協力



クロージング



みんなの輪

ラストはサザンオールスターズやPUFFY、くまモンなどの振付を担当した南流石さんと一緒に、みんなで踊ってグランドフィナーレ



SDGsフォーラム

スペシャルメッセージ

イベントを後援している外務省の河野外務大臣とスペシャルサポートを務めるタレントの鈴木福くんからのビデオメッセージをいただきました。



| 河野太郎 外務大臣 |



| 鈴木福くん |

2019年度 年間実施 事業報告



2/4
2月度月例会



2/7 (事業説明会など 全10回)
会員拡充事業



2/22-24
金沢会議



3/13 (9月まで 全11回)
会員資質向上事業



3/18
公開討論会



3/19
3月度月例会



4/6-7
入会式・新人セミナー



4/12 (6月まで 全4回)
SDGs半端ないって!
セミナー



4/23
4月度月例会



5/11
第38回大阪市長杯
わんぱく相撲大阪市大会



5/25
整肢学院児童
レクリエーション事業



6/8-9
MIRAI 防災リーダーズ



6/13-15
MIRAI KAIGI
FAMI FES



6/15
MIRAI KAIGI
MIRAI 防災リーダーズ



6/15
MIRAI KAIGI
RAINBOWSTAGE



6/15
MIRAI KAIGI
6月度月例会

2019年度 年間実施事業報告



6/15

MIRAI KAIGI
若者サミット



6/15

キッズアドベンチャー～未来の扉を拓く冒險～ オリエンテーション サミットを体感しよう2019



7/14-15

Colors



7/14-15

キッズアドベンチャー
～未来の扉を拓く冒險～



6/17-20

ASPAC済州大会



7/6-7

近畿地区大会 亀岡大会



7/29

未来フェス



7/29

7月度月例会



8/6

OB現役交歓会



8/11

第31回
なにわ淀川花火大会



8/24-25

GYAOビジネスコンテスト



9/7

SDGs甲子園×TOYP
フォーラム



9/20

9月度月例会



9/23

大阪ブロック大会
吹田大会



10/10-13

全国大会
富山大会



10/25

10月度月例会



11/4-8

世界会議
エストニア大会



11/21

11月度月例会



12/11

会員大会

01.

会員開発 特別委員会



基本方針 善を循環させる情熱あふれるリーダーを育もう!

事業計画 私たちは、公に尽くす青年としてのるべき姿を認識し、あらゆる変化を受け止める柔軟な気質をもち、失敗を恐れず積極果敢に挑戦する意気を携え、社会から託された自らの責務を果たす行動力を有し、善の循環の起点となる指導力を備えたリーダーを育成します。

事業報告

新入会員の拡充事業

事業内容	210名の新入会員拡充を通じて、公に尽くす青年としてのるべき姿を認識するリーダーを育みます。
実施時期	2019年1月～2019年3月
場 所	中之島LOVECENTRAL、スイスホテル南海大阪、JISNANBA、JISUMEDA
参加人數目標・報告	目標： 210名 結果： 191名
実施方法の工夫	今年度は2期2年の撤廃と新たな試みとして、スターティングパーティを企画実施しました。拡充イベント毎で多くのメンバーに役割を振り分ける事により、事業目的を達成するよう工夫致しました。
事業目的に達した点	各種拡充イベントを通じて、メンバー自ら大阪青年会議所の良さを発信していく事で、公に尽くす青年としてのるべき姿を認識したリーダーを育成する事が出来ました。
事業目的に達しなかった点	拡充目標人数210名を掲げていましたが、結果191名となり、目標の拡充人数を達成するには至りませんでした。

入会式・入会セミナー事業

事業内容	既存の委員会メンバーが主体となって、新入会員の入会式・入会セミナーを執り行うことによって、公に尽くす青年としてのるべき姿を認識したリーダーを育成します。
実施時期	入会式・新人セミナー 2019年4月6日(土)13:00から2019年4月7日(日)11:50まで フォローアップセミナー 2019年4月20日(金)19:00から22:00まで
場 所	(入会式)梅田ステラホール (フォローアップセミナー)一般社団法人 大阪青年会議所 事務局 (入会セミナー)勝尾寺
参加人數目標・報告	目標： 入会式： 旧人96名、新人210名、役員28名 合計334名 入会セミナー： 旧人96名、新人210名 合計267名 フォローアップセミナー： 旧人24名、新人39名、役員1名 合計64名 結果： 入会式： 旧人77名、新人163名、役員10名、他委員会9名 合計259名 入会セミナー： 旧人77名、新人146名 合計223名 フォローアップセミナー： 旧人18名、新人24名 合計42名
実施方法の工夫	新入会員に対し、今後会員として活動していく上でのエッセンスとなる情報を集約した「新人マニュアル」を配布しました。セミナーを聞くだけでなく、新人マニュアルを読むことで、大阪青年会議所で今後どう活動していくか、公に尽くす青年としてのるべき姿をより具体的にイメージすることができました。
事業目的に達した点	全体を通じて、JAYCEEに必要な資質を新入会員に伝え、運動参画の意欲を高めたことで、まちづくりの主体者としての意識を高めることができました。
事業目的に達しなかった点	新人・旧人共に数値目標に達しなかったところは、事業目的に達しませんでした。

会員開発特別委員会

整肢学院児童レクリエーション事業

事業内容	新入会員で構成された整肢学院事業リーダーズを中心に、大阪整肢学院児童に向けたリクリエーションを行うことにより、あらゆる変化を受け止める柔軟な気質を持ったリーダーを育成しました。
実施時期	2019年5月25日(土)
場 所	大阪整肢学院
参加人目標・報告	目標：(対内)292名 (対外)153名 結果：(対内)202名 (対外)153名
実施方法の工夫	入会後最初の事業なので、1年間のリーダーズ会議の基盤となるべく、大阪青年会議所の事業実施に至るまでの議案を導入し、新人にはより青年会議所の事業の考え方を学んでいただき、情熱を携え、他に善かれかしの精神で行動する人材を育成しました。
事業目的に達した点	議案フォームを使うことによりJCの事業の組み立ての理解を新人ができた。 また1年間小委員会を引っ張れるリーダーへと育成できた。
事業目的に達しなかった点	対内参加目標人数が達成できませんでした。

第31回なにわ淀川花火大会運営協力事業

事業内容	第31回なにわ淀川花火大会を通じて社会から託された自らの責務を果たす行動力を有するリーダーを育成します。
実施時期	2019年8月10日(土) 花火大会当日ボランティア 2019年8月11日(日) 大会翌日会場および周辺清掃
場 所	淀川堤防一帯
参加人目標・報告	目標： 8月10日(土) 当日ボランティア 一般130名・メンバー420名 合計 550名 8月11日(日) 翌日清掃ボランティア 一般450名・メンバー250名 合計 700名 結果： 8月10日(土) 当日ボランティア 一般152名・メンバー357名 合計 509名 8月11日(日) 翌日清掃ボランティア 一般347名・メンバー176名 合計 523名
実施方法の工夫	一般ボランティアの参加募集について、募集チラシを各協力団体に配布するにあたり、過去郵送していたものを直接持ち込むことで、一般ボランティアの動員を促しました。
事業目的に達した点	新人リーダーズが中心となって各種団体や企業へ花火大会の意義を説明し、参加を促した。その結果として、当日ボランティアの人数として、運営協力に十分な人数を達成することができ、社会的な意義、新人リーダーズの行動力について育成することができました。
事業目的に達しなかった点	新人リーダーズについては、行動力の育成ができたが、その以外の新人会員については、運動等の落とし込みが足りず、行動力の熟成にはなりませんでした。

新入会員企画事業

事業内容	新入会員で構成された各リーダーズ会議にて、拡大事業、卒業事業を構築することで、失敗を恐れず積極果敢に挑戦する意気を携え、善の循環の起点となる指導力を備えたリーダーを育成します。
実施時期	(拡大事業)2019年11月21日(木) (卒業事業)2019年12月14日(土)
場 所	(拡大事業)帝国ホテル (卒業事業)ザ・リッツ・カールトン大阪
参加人目標・報告	目標：(拡大事業)新人210名 メンバー96名 拡充対象者100名 合計406名 (卒業事業)新人210名 メンバー96名 合計306名 結果：(拡大事業)新人 80名 メンバー40名 対象者128名 合計248名 (卒業事業)新人140名 メンバー70名 合計210名
実施方法の工夫	2つの新人企画事業の他に、日本JC、JCI、動員、わんぱく相撲、なにわ淀川花火大会、と年間の活動を細分化することにより、知識を深めてもらうように様々なリーダーズ会議の実施を通して、指導育成しました。
事業目的に達した点	新入会員全員が、いずれかのリーダーズ会議に所属することにより、より主体的に活動し、各事業構築と動員を行うことによって、失敗を恐れず積極果敢に挑戦する意識が高まりました。
事業目的に達しなかった点	卒業事業について、目標人数に達しませんでした。



会員開発特別委員会



副理事長
会員開発特別委員会 特別委員長
村尾 尚太郎
Shotaro Murao

2019年度会員開発特別委員会では、「善が循環する国際都市大阪の実現」に向けて委員会メンバーを対象に、公に尽くす青年としてのるべき姿を認識し、あらゆる変化を受け止める柔軟な気質をもち、失敗を恐れず積極果敢に挑戦する意気を携え、社会から託された自らの責務を果たす行動力を有し、善の循環の起点となる指導力を備えたリーダーを育成すべく、運動を展開しました。

4月新入会員入会に向け、年初から実施してきた拡充事業では、事業説明会、お茶会、異業種交流会といった従来の手法を用いて、大阪青年会議所を広く紹介するとともに、スターティングパーティーといった新たな手法を用いて拡充対象者に大阪青年会議所に興味をもってもらうと同時に、各種イベントを準備運営する既存の会員にとって公に尽くす青年としてのるべき姿を認識するリーダーとなる機会となりました。

4月には、新入会員を迎えるにあたり、入会式・入会セミナーを執り行いました。入会式では、大阪青年会議所の歴代理事長であり、日本青年会議所の歴代会頭である山本樹育先輩をお招きし、基調講演を行っていただき、今後JCで活動していくことによって公に尽くす青年としてのるべき自分の姿を思い描いていただくことができました。その後勝尾寺で行われた新人セミナーでは、青年会議所として推進しているSDGsの基本的考え方を学んでいただく機会を設け、さらには青年会議所の運動論を学んでいただくことによって、大阪青年会議所メンバーとして、どのように青年としての責務を果たす運動を展開していくのかを考えていただくことができました。

5月に実施された整肢学院事業では、新人の整肢学院リーダーズが中心となって各種リクリエーションを構築してもらうことで、あらゆる変化を受け止める柔軟な気質をもち、失敗を恐れず積極果敢に挑戦する意気を醸成してもらいました。当日は予想外の高い気温で、屋外で予定していたイベントを急遽屋内に変更するなどといったアクシデントもありましたが、新入会員リーダーズの臨機応変な対応により、スムーズな進行ができ、整肢学院の児童にも大変よろこんでいただき、同学院の職員の方々にも来年も期待していますとのお言葉をいただきました。

また、その他にも、年間の活動を細分化し、各種リーダーズ会議を設けることによって、新入会員全員がいずれかのリーダーズ会議に所属するようにすることで、より社会から託された自らの責務を果たす行動力を有するリーダーを育成できたと考えています。11月に実施された新人による企画事業である拡大事業では、拡充対象者100名の目標を大幅に上回る一般参加者に参加していただくに至りました。

年間を通して、新人会員には、るべきリーダーとは何かを目一杯考えていただき、結果社会から託された自らの責務を果たす行動力を有したリーダーに成長してくれたと確信しています。また、その新人への指導育成を通じて、旧人メンバーも、公に尽くし、善の循環の起点となるリーダーとなる意気が身に着いたと感じており、非常に頼もしいメンバーがより増加した1年間となりました。

結びとして、当委員会の各種事業実施や新人指導育成に関しては、多くの方々に多大なご支援を賜りましたことを深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



STAFF

特別委員長

村尾 尚太郎

幹 事

柿田 裕司
叶 裕一
川島 利之
木村 光信
三原 一馬

副委員長

遠藤 剛則
田代 忍
三木 章広
松倉 匠
前田 祐三
丸山 雄基
和田 益明

委 員

青山 欣吾
浅井 太
石井 瑞穂
今村 昭悟
岩崎 和仁
岩田 小夜
上西 孝法
内田 和也
浦上 浩之
浦本 淳
江崎 卓
大西 翼
金子 大智
加納 憎也
川口 友子
川崎 勝洋
川崎 哲

川間 亮佑
村川 貴史
岸田 城政
工藤 恵太郎
熊野 賢
倉田 壮介
小林 佑太郎
小淵 隆大
斎藤 直敏
坂本 直未
佐藤 真義
佐藤 陽太
三反田 裕也
白井 輝良
菅原 めぐみ
高瀬 隆之
高野 敬太郎

一 嘉

敦啓
忠士
高明
恭考
嗣成
東條
當真
徳岡
徳田
富坂
富田
中嶋
仲松
中村
行方
新田
野田
則武

畠中

林 原田
東出
福岡
福本
藤本
北條
前田
村井
松井
尾
松本
丸山
南林
宮尾
宮城
宮沢

三好

雅彦
森垣
慶一
森下
港平
森永
雄介
森本
光樹
森山
晃太郎
矢野
淳大
山口
達弘
弓場
吉原
健太
米倉
麻由
山口
健太
渡邊

光平
弘治
裕康
拓也
寛樹
勝仁
明宏
菜々実
絵里菜
勝裕
秀一
茂大
晃司
基弘
徹伸
次孝
兒

02.

未来の「善」創造室

次世代教育推進委員会
子どもの創造力育成委員会

室テーマ

未来に成長の連鎖をもたらす善を育もう！



常任理事
未来の「善」創造室 室長
藪根 壮一
Soichi Yabune

AIやロボットが本格的に普及し、人間に変わり他分野の労働を担うことが予想される中、未来を創造する一員として感性と独創性を持ち合わせることの重要性が増しています。今こそ、子どもが未来を切り拓くためのチカラを社会一丸となって育むことが必要です。

そこで、私たち未来の「善」創造室では、人間が限りない可能性を秘めていることを認識し、臆せぬ自由闊達に挑戦を続ける意欲を持ち、かけがえのない個性を伸ばす気概を携え、未来への大きな夢と希望の実現に向けて行動し、互いが互いを成長させていく連鎖を生みだす人びとを創出すべく、運動を展開して参りました。

次世代教育推進委員会では、大阪市内の子育て世代の大をを中心に、子どもの教育環境の構築促進する「第38回わんぱく相撲大阪市大会」、大人世代が子どもの個性を磨きあげる「COLORS」開催致しました。

子どもの創造力育成委員会では、未来を切り拓くチカラをもった人材を育成する「キッズアドベンチャー～未来の扉を拓く冒険～」を開催致しました。

AIやロボットが多分野の労働を担うと予想される未来だからこそ、社会一丸となって一人ひと



りの子どもの感性と独創性を磨き上げていく関係性を構築、そして、互いが互いを成長させていく連鎖を築くことができる人材の創出が必要であり、両委員会の活動はこの二つを実現するものでした。

今年度、ご協力いただいた多くの関係者の皆様のおかげで、私たちの目的を達成することができ、善が循環する国際都市大阪の実現につなげることができました。深く御礼申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

次世代教育推進委員会

基本方針 互いの成長が響き合う未来を切り拓く人びとを創出します。

事業計画 私たちは、子どもを育む当事者としての自覚を有し、枠にとらわれない新たな挑戦を支える意欲をもち、個性がもつ潜在的な可能性を輝かせる気概を有し、成功体験が生み出す成長の礎となる行動力を携え、互いの成長が響き合う未来を切り拓く人びとを創出します。

事業報告

次世代教育推進事業(第38回わんぱく相撲大阪市大会)の企画と実施

事業内容	大阪に住み暮らす大人世代(特に子育て世代)を対象に、枠にとらわれない新たな挑戦を支える意欲をもち、個性がもつ潜在的な可能性を輝かせる気概を有する人材を創出する事業。 【内容】 子どもの教育環境の構築を促進する事業 わんぱく相撲を通じ子育て世代の大人に改めて、子どもを育てる当事者意識をもっていただき、同時に開催を致しました。デイグラム診断による性格診断、プログラミング体験、留学教育を体験し、子どもの教育環境の構築を実際に考えていただく機会と致しました。
実施時期	2019年5月11日(土) 9:00~17:30
場 所	エディオンアリーナ大阪
参加人數目標・報告	目標： 大阪市に住み暮らす大人の人数 …3,500名 大阪市内の国立・私立・公立小学校及び外国人小学校1年生～6年生(男女)…2,000名 結果： 大阪市に住み暮らす大人 来場した大人の人数 約1,700名 来賓 45名 大阪市内の国立・私立・公立小学校及び外国人小学校1年生～6年生(男女) 事前登録者数 1,108名 当日参加者数 984名
実施方法の工夫	先進技術を活用することで、大人が気づいていない子どもの新たな一面や可能性に気づいてもらう機会とともに、現在の最先端教育の内容を体感してもらうことで、子どもの教育環境を整える必要性を感じていただきました。
事業目的に達した点	① わんぱく相撲に参加することによって、子どもたちを健全に育む最良の環境を作り上げる当事者が大人であることを感じることはできました。 ② 同時企画(性格診断、プログラミング教育、留学)に参加することによって、子どもたちを健全に育む最良の環境を作り上げる当事者が私たち大人であることを感じることはできました。
事業目的に達しなかった点	(参加者人数) 大阪市に住み暮らす大人の人数3,500名、大阪市内の国立・私立・公立小学校及び外国人小学校1年生～6年生(男女)2,000名に対して、来場した大人が1,800名、当日参加した子どもが984名で、目標に対し大幅に未達に終わりました。未達要因としては、チラシ配布が遅れたこと。②十分な数の学校訪問が実施できなかったこと。③ゲストや同時企画に関するPRが不十分だったことが考えられます。

次世代教育推進事業(COLORS)の企画と実施

事業内容	大阪に住み暮らす大人世代(特に子育て世代)を対象に、枠にとらわれない新たな挑戦を支える意欲をもち、個性がもつ潜在的な可能性を輝かせる気概を有し、成功体験が生み出す成長の礎となる行動力を携え、互いの成長が響き合う未来を切り拓く人びとを創出する事業。 【内容】 子どもの個性を磨きあげる事業 スポーツやプログラミングなどの専門的な体験を親子で一緒に取り組み、子どもの個性を磨きあげる実体験をすることで、子どもの個性を輝かせ、子どもとともに大人自身も成長していく関係性を構築していただく機会と致しました。
実施時期	2019年7月15日(月) 10時00分～16時00分
場 所	エディオンアリーナ大阪
参加人數目標・報告	目標： 大人1,500名、子ども1,000名、合計 2,500名 結果： 大人 238名、子ども 172名、合計 410名
実施方法の工夫	子どもだけが体験を行うのではなく、親と一緒に体験ができるようなプログラムを用意し、親子の関係を構築しやすい環境を作りました。次世代教育推進事業(第38回わんぱく相撲大阪市大会)でデイグラム診断結果に応じて体験できるプログラムを準備し、より多くの方に参加していただけるようにも致しました。
事業目的に達した点	① 子どもたちに新しい物事に挑戦の機会を提供することの重要性を感じることができました。 ② 成功体験を積み重ねるためには、大人のサポートが必要であると感じていただきました。 ③ 子どもが成長していくためには、大人との関係性が重要であり、実際に行動していくことができました。
事業目的に達しなかった点	(参加人数) 参加目的人数の大人1,500名、子ども1,000名に対し大人248名子ども172名と大きく割り込み、広く運動を展開することができませんでした。

子どもの創造力育成委員会

基本方針 切磋琢磨する関係で光り輝く未来を構築する人びとを創出します。

事業計画 私たちは、人間にしか生み出せない価値を認識し、あらゆる事象を受け止める柔軟な感受性を携え、自らの個性で多様な価値を創造する気概をもち、思い描く理想にむけて強く踏み出す行動力を備え、切磋琢磨する関係で光り輝く未来を構築する人びとを創出します。

事業報告

子どもの創造力育成事業(キッズアドベンチャー～未来の扉を拓く冒険～、未来フェス)の企画と実施

事業内容	大阪に住み暮らす子ども世代(小学生世代)を対象に、人間にしか生み出せない価値を認識し、あらゆる事象を受け止める柔軟な感受性を携え、自らの個性で多様な価値を創造する気概をもち、思い描く理想にむけて強く踏み出す行動力を備え、切磋琢磨する関係で光り輝く未来を構築する人びとを創出する事業。 【内容】 同世代の子ども同士で切磋琢磨し互いに成長しあえる関係の構築 大阪市の小学生を対象に、1泊2日で共同生活を行いました。プログラム内容としては、自らがもっている個性を生かしたスポーツやアートなどの体験を行い、個性を磨きました。そして、現代社会の課題を仲間と一緒に知り・考える機会を提供することで、自由な意見交換を行ない、未来フェスにてその結果を発表致しました。
実施時期	■オリエンテーション(保護者・子ども) 2019年06月15日(土) 13:00～17:00 ■キッズアドベンチャー～未来の扉を拓く冒険～ 2019年7月14日(日) 08:30～ 2019年7月15日(月) 19:00 ■未来フェス 2019年7月29日(月) 事前リハーサル 13:30～17:30 未来フェス発表 19:00～21:00
場 所	■オリエンテーション(保護者・子ども) AP大阪梅田茶屋町 ■キッズアドベンチャー～未来の扉を拓く冒険～ スノーピーク 箕面キャンプフィールド ■未来フェス エル・オオサカ エルシアター
参加人目標・報告	目標： 事業参加予定人数 100名 結果： 参加人数77名(達成率77%)
実施方法の工夫	それぞれの個人がもっている個性を磨く取り組みはもちろんのこと、現代社会の置かれている状況を子どもたちに発信をして、それぞれの思いや考えを自由に意見交換が行える環境を整えました。
事業目的に達した点	事業に参加した子どもが、多くの子ども交流しあいの考えを理解しながら、社会課題やSDGsを知り、未来に向けてどのような気持ちや考えを互いに共有する事ができました。
事業目的に達しなかった点	(参加人数) 参加目標人数100名に対して、キッズアドベンチャー77名、未来フェス66名という結果になりました。原因として広報の開始時期が予定よりも遅れてしまったことが大きな要因であると考えられます。



未来の「善」創造室

大阪市長杯 大阪市大会
第38回わんぱく相撲大会
わんぱく相撲
未来の「善」創造室

次世代教育推進委員会



理事
次世代教育推進委員会 委員長

森 祐輔

Yusuke Mori

私たち、次世代教育推進委員会では、大阪に住み暮らす大人世代(特に子育て世代)を対象に、「第38回わんぱく相撲大阪市大会」並びに、「COLORS」を開催致しました。事業を通して、大人と子どもが互いに成長を促す関係の構築を図って参りました。

まず、「第38回わんぱく相撲大阪市大会」では、親自身がもっている子どもに対してのフィルターを通して、子どもに接するのではなく、子ども自身がどのようなものに興味をもっているのか、それを親自身が拾い上げ子どもの後押しをすることが大切であり、子どもの教育環境の重要性を感じていただくことができました。また、「COLORS」では、実際に子どもがもつ個性を磨き上げていく過程で、親だけでなく、大人世代との関係性が構築できるか否かが、未来を切り拓くチカラに昇華することに重要な要素であると知っていましたとともに、実際に行動に起こしていただきました。

これからの中では、AIやロボットなどが普及することで、社会のあり方、個人のライフスタイルに大きな変化があることは確定的であり、それに合わせた新しい教育のあり方を引き続き推進していく必要があります。

最後になりますが、本事業にご参加・ご協力いただきました、学校関係者、講師の皆様、協賛企業の皆様に、心より感謝御礼申し上げます。



STAFF

委員長

森 祐輔

幹 事

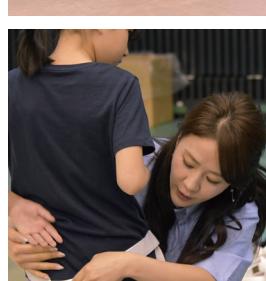
原田 大資
今村 大希
山崎 悠太郎
川崎 充
飯田 志穂子

副委員長

足立 順二郎
合林 茜
佐藤 美咲
竹澤 哲平
榎木 達也

委 員

秋山 篤司	金 鐘明	古川 直樹
安藤 有希	久保 佑允	三輪 洋子
池上 恭介	小寺 直志	森光 大輔
池田 康二	阪田 浩司	山本 崇久
石田 昌大	佐藤 俊	山本 顕悟
石束 賢吾	柴 和也	横 大貴
伊藤 大樹	昭野 元宏	横田 昭
伊部 周太	鈴木 順子	横山 真央
岩崎 誠宜	高山 怜子	若松 幸弘
宇井 戸三男	竹内 慎也	和多田 泰久
大浦 徹	竹川 聰	
大谷 賢二	谷内 圭一郎	
大橋 優喜	田原 陽平	
岡本 崇義	津露 啓司	
小川 潤	徳矢 卓洋	
奥田 知之	仲 雅子	
川上 智之	中原 圭介	
北村 一	南場 祐希	
紀平 満	深井 光雄	
木村 彰宏	福田 優帆	
清本 世哲	札場 雅弘	





未来の「善」創造室



理事
子どもの創造育成委員会
委員長
檜山 智志
Satoshi Hiyama

私たち、子どもの創造力育成委員会では、大阪に住み暮らす子ども世代(特に小学校世代)を対象に、「キッズアドベンチャー～未来の扉を拓く冒険～・未来フェス」を開催致しました。事業を通して、子どもたちが互いに切磋琢磨し、未来を切り拓くチカラへと昇華させることを目的とし1年間事業を展開致しました。

「キッズアドベンチャー～未来の扉を拓く冒険～・未来フェス」では、同世代の仲間たちが一同に会する場において、自らの個性を伸ばすとともに現代社会が抱える問題点を知り・考える機会を提供することで、仲間と切磋琢磨し自身の感性や独創性を磨くとともに成長できる関係性を構築致しました。

今後、AIやロボットなどが普及することで、これからの中は大きな変化が予測されます。そんな未来を切り拓いていくためにも、未来を生きる今の子どもたちには、自由な発想から生まれる独創的なイノベーションを生み出していく必要があります。だからこそ、感性と独創性を大切にし、仲間とともに自分自身を磨きあげていく必要があります。

最後になりますが、本事業にご参加・ご協力いただきました、学校関係者、講師の皆様、協賛企業の皆様に、心より感謝御礼申し上げます。



STAFF

委員長

檜山 智志

幹 事

石川 雅也
中西 隆人
佛坂 智志
安田 貴弘
矢野 弘和

副委員長

安里 信友
麻生 樹男
池田 俊雄
押村 直志

委 員

英賀 雄介	北野 雄一郎	平井 裕司
東 聰史	北平 大輔	福島 輝敬
安部 由佳	木戸地 陽平	藤原 宗太
有馬 大起	木下 孝之	毒島 光志
池田 健志	久保 大輔	増井 僕平
石田 聰	久堀 修平	宮秋 賢三
一瀬 知史	井上 悠一	宮芝 秀磨
岩鼻 和記	小久保 淳	森田 慧
岩本 琢久造	小手 健裕	山川 正時
臼井 慶宜	斎藤 寛樹	山田 浩介
大木 信吾	澤田 昭絵	山田 浩司
大子 修	鄭 ジチョル	山根 大輝
大西 良雄	白原 一	
小桐 裕介	住江 悠	
小國 博貴	高橋 弘樹	
尾崎 祐也	武信 浩行	
越智 敬一	玉野 倫弘	
表 秀和	寺田 弥生	
梶田 晋一郎	豊川 重国	
金谷 研一	濱口 匠太郎	
北田 昇平	秀島 勇介	

裕司	福島
輝敬	藤原
宗太	毒島
光志	増井
僕平	宮秋
賢三	宮芝
秀磨	森田
慧	山川
正時	山田
浩介	山田
浩司	山根
大輝	

03.

大阪の「善」創造室

次世代都市デザイン委員会
都市ネットワーク構築委員会

室テーマ

攻めと守りを兼ね備えた大阪ブランドを確立しよう！



常任理事
大阪の「善」創造室 室長

森高 悠太

Yuta Moritaka

2019年の日本初開催となるG20やラグビーワールドカップをはじめ、2021年にはワールドマスターズゲームズの開催、さらには日本再興の急先鋒ともいえる統合型リゾート開発など「大阪・関西」には、世界からことのほか大きな期待が寄せられています。一方で2018年6月の大阪北部地震や同年7月の西日本豪雨災害は、いつ起こるとも知れない南海トラフ大地震に対する都市災害対策の脆弱性に警鐘を鳴らしてくれました。

大阪は、世界に先駆けた課題先進都市のロールモデルとしての発展を遂げる機会を迎えています。そこで大阪の「善」創造室では、「攻めと守りを兼ね備えた大阪ブランドを確立しよう！」をテーマに掲げ、今まで培ってきたものの活用から成長と課題解決を目指す意識を育むことで、変革期にある都市の現状を俯瞰的に捉え、自らの想いが未来を変えることができるという可能性を信じ、より良い未来を創る主体者としての自覚をもち、災害の脆弱性への危機感を自らにも起こり得る危険として受容し、未来志向の発想を湧き立たせる感性を磨くことで次世代都市の姿を見出し、他に善かれかしの精神で拡大し続ける連携を生み出す使命感を醸成することで有機的な連携の起点となり、大阪の攻めと守りを進化させ続ける好循環を創る、新

たな大阪ブランドを世界へと拡げていく人びとを増やす運動を展開して参りました。

次世代都市デザイン委員会では、大阪市民の皆様に、誰もが活躍できる社会を身近に感じてもらうべく、6月に実施したSDGs未来会議において、「RAINBOW STAGE」と題したトークセッションを行いました。多くの市民の皆様に、強みを活かして活躍できる次世代都市の在り方について共に考えていただき、大阪の攻めを進化させ続ける好循環を創るべく事業を実施しました。

都市ネットワーク構築委員会では、大阪市民の皆様や企業、団体の方々を対象に、事業を実施致しました。統一地方選挙に先駆けて実施した公開討論会や、若年層の政治参画意識向上のために若者サミットといった事業を通じて、自らがもつ役割と社会的責任について考えていただき、MIRAI防災リーダーズという事業を通じて、防災への取り組みの必要性と災害時の課題、自身のもつ役割を理解していただき、学生・企業・団体・行政などが連携し、都市ネットワークを構築することの重要性を感じていただくことができました。

結びに、事業実施にあたり、多大なるご協力を賜りましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。1年間、誠にありがとうございました。



次世代都市デザイン委員会

基本方針 次世代都市の魅力を力強く発信する人びとを増やします。

事業計画 私たちは、都市の魅力を引き出す必要性を認識し、より良い未来を切り拓く可能性に期待を抱き、世界が期待する都市モデルを想い描く感性を有し、立場の違いを越えた有機的な連携を生み出す行動力を携え、次世代都市の魅力を力強く発信する人びとを増やします。

事業報告

次世代都市デザイン事業の企画と実施

事業内容	RAINBOW STAGEの企画と実施を通じて、世界が期待する都市モデルを想い描く感性を有する人びとを増やします。 【内容】 トランスジェンダー、ジェンダーレス男子、社会で輝いている女性など、様々な個性を発揮して第一線で活躍している方々にご出演いただき、多様性を感じてもらえるステージイベントを実施。 テーマ:270万人総活躍～誰もがそれぞれの強みを生かして活躍できる社会～
実施時期	2019年6月15日(土)14:00～14:40
場 所	グランフロント大阪 うめきた広場
参加人數目標・報告	目標： 450名 結果： 394名
実施方法の工夫	・注目度高いゲスト出演者を選定することで、より多くの集客を図ります。 ・若者サミットと家族例会の間に実施することで、幅広い年齢層の集客を図ります。 ・オープンスペースでの無料観覧スタイルでイベントを実施することで、メディアを呼び込み、ファミフェス自体の広報活動にも寄与します。 ・多種のステークホルダーを迎えることで、多様性のある次世代都市の在り方をより強く感じてもらいます。
事業目的に達した点	観覧者の大部分が次世代都市を創っていく一員であると認識できたという結果を得ることができました。He For Sheサイトへの登録も約半数の方に登録していくことができたことから、事業に参画していただいた方々には、先入観や偏見に縛られない柔軟で前向きな発想がもたらす次世代都市の在り方を理解していくことができました。
事業目的に達しなかった点	対外観覧者の目標動員人数を下回ったことにより、目的達成を判断する検証結果を得ることができませんでした。

都市ネットワーク構築委員会

基本方針 災害に強く、自らより良い未来を創りだすことのできる、如何なる困難にも負けない強靭な都市大阪を創る都市ネットワークを構築する。

事業計画 私たちは、先人の経験から培われた教訓の有用性を認識し、自らに課せられた社会的な役割と責任を理解し、強靭な都市を具現化する想像力を携え、多層的な均衡と調和をもたらす寛容性を有し、搖るぎない意志でより良い都市の未来を創り出す人びとを増やします。

事業報告

都市ネットワーク構築事業(選挙にいったんで!Project2019公開討論会)企画と実施

事業内容	自らに課せられた社会的な役割と責任を理解する人びとを増やします。
実施時期	2019年3月18日(月)19:00~21:00
場 所	大阪市中央公会堂
参加人目標・報告	目標： 500名 結果： 254名
実施方法の工夫	学生団体やNPO法人に広報の協力をもらうことで多くの学生が参加できるようにします。
事業目的に達した点	公開討論会を通じて、学生団体やNPO法人に広報面での協力を行ってもらいました。また、学生団体UMFが行う事業のPRを行ってもらい、若年層こそが選挙・政治について積極的に活動することで、大阪市民の皆様や企業、団体の方にも、ネットワークが構築される事業を行えることに気付いていただくことができました。
事業目的に達しなかった点	来場者数が目標に届かず、特に学生の参加人数が少ない結果となりました。

都市ネットワーク構築事業(MIRAI防災リーダーズ)募集・企画と実施

事業内容	【募集】先人の経験から培われた教訓の有用性を認識する人びとを増やします。 【実施】強靭な都市を具現化する想像力を携え、多層的な均衡と調和をもたらす寛容性を有する人びとを増やします。	
実施時期	<p>【募集】 2019年04月01日~2019年05月31日 【実施】 2019年6月 1日(土)19:30~22:00 オリエンテーション 2019年6月 8日(土)13:00~9日(日)9:30 語り部講演、消防署講演・体験、防災ウォーク、避難所宿泊体験 2019年6月15日(土)10:30~11:45 パネルディスカッション 2019年6月15日(土)14:15~16:00 MIRAI防災会議～MIRAI防災プロジェクト～</p>	
場 所	<p>オリエンテーション 大阪青年会議所事務局 語り部講演 大阪市西消防署 消防署講演・体験 大阪市西消防署 防災ウォーク 大阪市西消防署から西船場小学校まで(2ルート) 避難所宿泊体験 大阪市立西船場小学校 パネルディスカッション グランフロント大阪北館 ナレッジプラザ MIRAI防災会議 グランフロント大阪カンファレンスルームC6</p>	
参加人目標・報告	<p>オリエンテーション 目標： 大学生ボランティア 20名 企業ボランティア 10名 結果： 大学生ボランティア 14名 企業ボランティア 7名</p> <p>語り部講演、消防署講演・体験、防災ウォーク、避難所宿泊体験 目標： 小学生 43名 保護者 27名 大学生ボランティア 20名 企業ボランティア 10名 結果： 小学生 36名 保護者 21名 大学生ボランティア 17名 企業ボランティア 10名</p> <p>パネルディスカッション 目標： 小学生 43名 保護者 27名 大学生ボランティア 20名 企業ボランティア 10名 結果： 小学生 19名 保護者 11名 大学生ボランティア 11名 企業ボランティア 6名</p> <p>MIRAI防災会議～MIRAI防災プロジェクト～ 目標： 大学生ボランティア 20名 企業ボランティア 10名 結果： 大学生ボランティア 11名 企業ボランティア 6名</p>	
実施方法の工夫	<p>【募集】 都市ネットワークの構築に向けて、子ども・保護者・大学生ボランティア・協賛企業を募集します。そのための広報の中で、今までに積み上げられてきた防災の知識や経験を発信します。 【実施】 語り部講演により過去の災害から得た教訓と危機感を学び、消防署体験から公助の必要性を認識し、防災ウォークの実施により災害時の避難をシミュレーションできる形で学んでもらいました。避難所宿泊体験から、有事の際の心構えや備えの必要性に気づくと共に協賛企業が取り組む防災について知ることができます。 SDGs未来会議の場で、本事業の参加者に、事業を通じて得られた知見を発表していただくことで、更なる共感を生み、まちのために協力し合えるネットワークの重要性を発信していただきます。 ボランティア参加者に、自ら防災事業の計画とその実現のために必要なネットワークについて考えてもらいます。</p>	

事業目的に達した点	【募集】 大学生ボランティアと企業ボランティアに先人の経験から培われた教訓の有用性を学んでいただき、受け継がれてきた資産が都市の成長と課題の解決に有益であることに気づいていただくことができました。
	【実施】 参加者57名およびボランティア27名に大阪市西区の災害に対する取り組み内容や非常食などの最新の防災用品、避難所での就寝時の苦労などについて知っていただき、参加者・参加ボランティアに防災への取り組みの必要性と災害時の課題、自身の役割を理解していただくことが出来ました。 パネルディスカッションでは小学生19名・大学生ボランティア11名に事業を通して感じたことを発表していただき、MIRAI防災会議に参加したボランティア17名に防災・減災を学ぶための事業計画および連携の必要性を議論・発表していただくことで参加者・参加ボランティアに災害時の課題と自身の役割を理解していただくと共に、学生・企業・団体・行政などが連携出来ることを理解していただくことが出来ました。
事業目的に達しなかった点	なし

都市ネットワーク構築事業(若者サミット)企画と実施

事業内容	搖るぎない意志でより良い都市の未来を創り出す人びとを増やします。
実施時期	2019年6月15日(土) 13:00~14:00
場 所	グランフロント大阪 うめきた広場
参加人目標・報告	目標： 対外来場者 1,009名 (出演者含む) 結果： 対外来場者 680名 (出演者含む)
実施方法の工夫	大阪市民の内、18歳から24歳の若年層の政治に対する関心や投票率を向上させるために、同世代の市民に公開形式のパネルディスカッションに参加していただき、社会に訴えかける事へ実施し続ける行動力を養っていただきます。
事業目的に達した点	事業を通じてすべての人びとが幸福を実感する都市の実現に向けて積極果敢に一步踏み出す行動力につながりました。 パネリストとして出演していただいた方に、「政治・選挙は取り組まないといけない事である」という意識をもっていただくことができ、今後もその影響力で、若年層を良い方向へと導いてくれることに期待できると考えます。パネルディスカッション中にも、今後も同様のイベントに取り組みたい等の発言もありました。 今回、普段接点を持たない出演者によるパネルディスカッションを実施したことにより、意識が変わり選挙に行き、SNS等で発信を行う等の行動を起こす若者を創出する事ができました。
事業目的に達しなかった点	来場者数について、目標を達成することができませんでした。 アンケート回収数について、目標を達成することができませんでした。

大阪の「善」創造室

次世代都市デザイン委員会



理事
次世代都市デザイン委員会
委員長

滝本 祐一
Yuichi Takimoto

私たち次世代都市デザイン委員会では、「善が循環する国際都市大阪の実現」に向けて、大阪市に住み暮らす人びと、特に10代～30代を対象に、都市の魅力を引き出す必要性を認識し、より良い未来を切り拓く可能性に期待を抱き、世界が期待する都市モデルを想い描く感性を有し、立場の違いを越えた有機的な連携を生み出す行動力を携え、次世代都市の魅力を力強く発信する人びとを増やすべく、運動を展開して参りました。

6月に行われたSDGs未来会議において実施しましたRAINBOW STAGEでは、新規事業という事で、対象者に自分自身の中になかった常識や個性というものが、ごく身近に存在することを強く認識していただけたことは、強みを活かして誰もが活躍できる次世代都市を創り上げるうえで非常に有意義であったと考えております。今回ののみで終えることなく、様々なステークホルダーが強みを活かせる方法を考えていたたく機会を数多く提供していくことが必要です。

次世代都市を創る上で、様々な個性や価値観が身の回りに存在しているという事をもっと多くの人に認識してもらうことが重要です。性別や環境に捉われることのない、誰もが活躍できる社会を創っていくには、他に善かれかしの精神で連携し、誰のためにどう善いのかを考え続けることが必須です。今回取り上げたテーマについて考える機会を市民に提供するために、様々な事例や事業で得られた結果をよく研究し、課題解決モデルとなる次世代都市に大阪が成長していくことに繋がる事業構築を重ねていくことが重要です。

結びとなりますが、当委員会の事業構築、実施にあたり、多大なるご支援、ご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。1年間、誠にありがとうございました。



STAFF

委員長

滝本 祐一

幹事

西谷 尚志
門口 崇彦
浅川 裕大
長井 淳嗣
河端 和也

副委員長

山野 謙介
西尾 一雄
加藤 賢一

委員

赤崎 智章	田中 良龍
泉 晓	谷井 正佳
一花 裕一	谷口 豊誠
伊藤 健太郎	西尾 一雄
今井 勇治	西澤 孝朗
植松 真央	野田 晃司
宇津和 美加	橋野 久人
鵜沼 佑彌	島 伸太郎
江川 聰	平岩 佑彦
門 高志	堀川 雅典
加藤 賢一	松井 隆明
河中 一朗	松本 昌勝
河村 麻衣	三島 俊彦
金 大輝	三角 佐代子
佐々木 亮輔	本原 美沙
更家 一徳	森下 友陽
塩出 征史	森島 康文
柴田 和子	森田 修二
白石 陽一	安井 将祐
平 如将	山野 謙介
高山 洋平	山本 剛士

湯浅 博人
吉田 慧



大阪の「善」創造室



理事
都市ネットワーク構築委員会
委員長

福川 聰志
Satoshi Fukukawa

私たち、都市ネットワーク構築委員会では、「善が循環する国際都市大阪を実現」に向けて大阪に住み暮らす人びとを対象に、先人の経験から培われた教訓の有用性を認識し、自らに課せられた社会的な役割と責任を理解し、強靭な都市を具現化する想像力を携え、多層的な均衡と調和をもたらす寛容性を有し、搖るぎない意志でより良い都市の未来を創り出す人びとを増やすべく、運動を展開して参りました。

2019年は、4月に行われた統一地方選挙や参議院議員通常選挙など、大阪に住み暮らす人びとにとって、社会的な役割と責任と向き合う機会が多くある1年でした。その機会を活かし、当委員会では学生団体やNPO法人の方々にご協力いただき、3月に公開討論会を開催し、若者世代が自らに課せられた役割と責任を理解していただくことができました。

さらに、6月に行われたSDGs未来会議ではより多くの若年層の選挙や政治への参画意識を向上させる若者サミット事業や、2018年に見舞われた多くの自然災害から学んだ教訓を活かすべく、MIRAI防災リーダーズ事業を行いました。いずれの事業も、大学生などの若者を中心に、企業・団体・行政と連携し、強靭な都市を創るネットワークを構築するため委員会全体で邁進して参りました。

結びとなりますが、当委員会の事業構築、実施にあたり、ご支援、ご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。1年間、誠にありがとうございました。



STAFF

委員長

福川 聰志

幹事

秋本 賢
安藤 豪哉
末吉 勇次
宮崎 靖恵
田口 開

副委員長

白石 達也
中山 浩介
古庄 敏之
山本 晃大
菅原 知

委員

大久保 優太	石崎 育子	前川 晃一
上田 哲也	岡山 和弘	岸 磨沙美
大橋 恭兵	御手洗 万里衣	高橋 佳奈
西尾 直樹	山田 俊輔	中川 謙治
津波 丈雄	小松 直哉	成田 豊
中島 雅子	藤田 温香	横山 大典
谷口 勇人	山本 貴也	小玉 恵美
松山 和徳	高木 公平	西井 重超
松本 忠義	宮野 太津矢	
杉立 慎太郎	前川 一成	
久保 雅史	石井 孝昌	
依藤 哲也	西川 武尊	
皆光 燐	上田 浩嗣	
宇野 裕明	藤本 幸治	
斎藤 秀樹	小林 篤史	
川崎 雄也	末岡 俊一郎	
山本 守	及川 健太	
四宮 圭	谷口 真由	
淀 洋和	青木 紘史	
奥山 隆輔	安部 久史	
木下 朱乃	影山 裕一	

04.

世界の「善」創造室

共通価値発信委員会
世界市民育成委員会

室テーマ

調和を生み出す「世界市民」を地球全体に創り出そう！



常任理事
世界の「善」創造室 室長
坂 昌樹
Masaki Saka

諸外国との距離が近付く中、自国の利益だけを追求する各国の活動が地球レベルでの危機をもたらしています。そんな現状だからこそ、多様性を寛容に受け止め、新たな価値を創造する使命感と情熱を備え、世界を舞台に誰ひとり取り残すことのない調和を生み出す人財が必要です。

そこで私たち世界の「善」創造室では、培われてきた豊かな精神性を理解し、多様な背景や価値観を寛容に受け止め、互いに他を成り立たせる共通の未来を想い描き、世界を舞台に新たな価値への共感を拡げていく責任を自覚し、誰ひとり取り残すことのない調和を生み出す人財を創出すべく、運動を展開して参りました。

共通価値発信委員会では、企業経営者を中心、SDGsへの取り組みを促す「SDGs半端ないって！セミナー」、「SDGs甲子園」を開催し、さらに、世界中でSDGsへの取り組みによってイノベーションを起こしている起業家6名をお招きしての「TOYP」を実施致しました。

世界市民育成委員会では、高校生を対象に、SDGsの考え方を活かし、課題解決型のビジネスモデルで世界を、未来を変えていける人財へと育成する「Global Young Academy Osaka」



を実施致しました。

一部の人びとの行き過ぎた利益追求が、世界的な衝突と危機を招きかねない今こそ、価値観の違いを超えて共通の未来を想い描くことができる関係性の構築と、新たな価値を創造する使命感と情熱で「調和」を生み出せる人財の育成が必要であり、両委員会の活動はこの二つを実現するものでした。

今年度、ご協力いただいた多くの関係者の皆様のおかげで、私たちの目的を達成することができ、善が循環する国際都市大阪の実現につなげることができました。深く御礼申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

共通価値発信委員会

基本方針 全世界の人びとと共に新しい豊かな世界の実現へと行動力を発揮する人財を創出します。

事業計画 私たちは、国や地域の風土や伝統を理解し、日本人の豊かな精神性で多様な価値観を受け止め、より良い未来を実現する意欲を持ち、新たな価値への共感を拡げる情熱を燃やし、全世界の人びとと共に新しい豊かな世界の実現へと行動力を発揮する人財を創出します。

事業報告

共通価値発信事業(SDGsセミナー)の企画と実施

事業内容	『SDGs半端ないって!セミナー』と称して、大阪に住み暮らす人びと(特に中小企業経営者及び士業の方々)を対象に、国や地域の風土や伝統を理解し、日本人の豊かな精神性で多様な価値観を受け止める人財を創出する事業。 【内容】 SDGsについての周知を目的としたセミナー。 前半のセミナーでは、SDGsを知らない、もしくは取り組んでいない中小企業経営者に対し、基本的な事項である17ゴール、169ターゲット、SDGs5原則、第2回ジャパンSDGsアワード受賞企業による基調講演など、インプット中心のセミナーを実施。後半は、SDGsを自社にどのように取り入れていくことができるのかを念頭に置きつつ、仮想企業の経営陣を演じるグループワークで、どのようにSDGsを取られることができるのかを実際に考えていただきました。
実施時期	2019年4月12日(金) 19:00~22:00 2019年4月26日(金) 19:00~22:00 2019年5月22日(水) 19:00~22:00 2019年6月13日(木) 13:00~16:30
場 所	大阪青年会議所 事務局 グランフロント大阪
参加人數目標・報告	目標： 中小企業100社以上の経営者(導入支援者である士業を含む) 結果： 参加者数：202社 参加者総数：(中小企業経営者及び士業)227名
実施方法の工夫	第2回ジャパンSDGsアワードパートナー賞受賞企業、大川印刷 大川哲郎様、同じく、SUNSHOW GROUP 西岡徹人様を招待することで、セミナー自体のレベルの向上に努めました。
事業目的に達した点	基礎セミナーでは、基本的な内容から成り立ちについての理解し、ジャパンSDGsアワード受賞企業である特別講師セミナーでは実践例や導入事例について、より一層の理解度を深めました。 グループワークでは、具体的な課題とSDGsのゴールやターゲットに結びつけることを学ぶことができました。また、ビジョンや目的を共有した上で、様々な職種が協働で行うこと、常識にとらわれない新たなアイデアが生み出されておりました。
事業目的に達しなかった点	(HP掲載企業数)アンケートでは118者中62.9%がHP上の掲載を希望していたにもかかわらず、撮影には至りませんでした。 発生した原因については①個人的な写真撮影がNGである方、②写真撮影が間に合わなかった方、③自社HPがない場合などが挙げられます。

SDGs推進事業(SDGs甲子園 TOYP)の企画と実施

「TOYPフォーラム」と称しての海外のSDGsの取り組みでイノベーションを起こしている方に登壇いただき、そして、「SDGs甲子園」と称して、「SDGs半端ないって!セミナー」に参加してくださった方に登壇いただき、大阪に住み暮らす人びと(特に中小企業経営者及び士業の方々)を対象に、より良い未来を実現する意欲を持ち、新たな価値への共感を拡げる情熱を燃やし、全世界の人びとと共に新しい豊かな世界の実現へと行動力を発揮する人財を創出する事業。

内 容 ①	
事業内容	TOYPフォーラムの実施 本年度のTOYPテーマである「SDGs」に基づいて選考したTOYPメンバーに、多様性を活かしまさまでイノベーションを起こしてきた体験や経験を発表していただきました。
実施時期	2019年9月5日(木)~2019年9月11日(水)
場 所	大阪迎賓館、近畿大学、浅草寺、皇居など
参加人數目標・報告	目標： TOYPメンバー6名 ウエルカムパーティー参加者50名 フォーラム参加者364名 結果： TOYPメンバー6名 ウエルカムパーティー参加者53名 フォーラム参加者162名
実施方法の工夫	TOYPメンバーには、ユニークな想像力と自らの価値観から行動へと至ったSDGsに関する取り組みをプレゼンテーションしていただき、SDGs甲子園のファイナリスト、大川氏と西岡氏、近畿大学学生を交えたパネルディスカッションを実施しました。
事業目的に達した点	TOYPフォーラムでSDGsの世界の事例を発表していただくことで、日本に住んでいるとなかなか触れることができない課題を聞くことができ、さらに、日本の課題と双方の視点からSDGsについて考える機会となりました。 後援をいただくことで、この事業の重要性が伝わり、外務省の後援は登壇者にとっては次の目標とする、ジャパンSDGsアワードを身近に感じ、チャレンジしてもらう意欲を湧き立たせることができました。
事業目的に達しなかった点	TOYPフォーラムでの発表内容を通訳業者と打合せが出来てなかったので100%の内容を伝えることができませんでした。 後援名義を提出した外務省、大阪府、大阪市、近畿経済産業局、関西SDGsプラットフォームのうち、取得できたのは外務省と、近畿経済産業局のみでした。 9月7日事業実施に対し、外務省は9月2日、近畿経済産業局は9月5日に使用許可が下りたため、入稿が間に合ったのはパンフレットと、バナーのみとなり、事前の広報や、印刷物に記載することができず、十分に後援の効果を発揮することができませんでした。

SDGs推進事業(SDGs甲子園 TOYP)の企画と実施

「TOYPフォーラム」と称しての海外のSDGsの取り組みでイノベーションを起こしている方に登壇いただき、そして、「SDGs甲子園」と称して、「SDGs半端ないって!セミナー」に参加してくださった方に登壇いただき、大阪に住み暮らす人びと(特に中小企業経営者及び士業の方々)を対象に、より良い未来を実現する意欲を持ち、新たな価値への共感を拡げる情熱を燃やし、全世界の人びとと共に新しい豊かな世界の実現へと行動力を発揮する人財を創出する事業。

内 容 ②

事業内容	SDGs甲子園の実施 1.SDGs半端ないって!セミナーに参加いただいた方々の中からエントリー、登壇をいただきました。 2.外務省、近畿経済産業局、協賛企業に後援、協力をしていただくことでSDGsの重要性をアピールしました。
実施時期	2019年9月7日(土)
場 所	近畿大学東大阪キャンパス11月ホール小ホール
参加人數目標・報告	目標： 364名 結果： 162名
実施方法の工夫	SDGsが確かに伝わるように、イベント舞台の演出やメディアボードの設置、最寄駅から近畿大学正門までにSDGsの登りを配置する「町中SDGs」を実施、会場入り口にはSDGsのバルーンアート設置などビジュアルにこだわりました。また、ビジネスコンテストの部分では大きな感動を参加者に与えたかったので5社のファイナリスト企業と、発表の仕方、表現方法など入念に打ち合わせを行いました。
事業目的に達した点	世界で実施しているSDGsの取り組みを聞くことでまだ自分たちができる感じをもらえる機会でした。またこれからSDGsを広げていこうとしている企業との出会いにより、お互いの情報交換が新たなイノベーションが生まれる機会を提供できました。 「目指せ!ジャパンSDGsアワード」を目標に掲げ、各企業の取り組みを聞いてもらう場を提供し、審査員の方々から評価してもらうことで、課題が見え、今後の活動への活力となりました。
事業目的に達しなかった点	TOYPフォーラムでの発表内容を通訳業者と打合せが出来てなかったので100%の内容を伝えることができませんでした。 後援名義を提出した外務省、大阪府、大阪市、近畿経済産業局、関西SDGsプラットフォームのうち、取得できたのは外務省と、近畿経済産業局のみでした。 9月7日事業実施に対し、外務省は9月2日、近畿経済産業局は9月5日に使用許可が下りたため、入稿が間に合ったのはパンフレットと、バナーのみとなり、事前の広報や、印刷物に記載することができず、十分に後援の効果を発揮することができませんでした。

世界市民育成委員会

基本方針 全世界の人びとと新しい豊かな世界に向けて行動する人財を育成します。

事業計画 私たちは、培われた寛容性が多様さを受け止める可能性を認識し、より良い未来を描き出す想像力を有し、国境を越えて共創される未来への期待感を抱き、新たな価値を創出する責任感を携え、全世界の人びとと新しい豊かな世界に向けて行動する人財を育成します。

事業報告

世界市民育成事業

事業内容	【 Global Young Academy Osaka～マイを切り拓くチカラ～】通称:GYAOと称して 大阪府内の高校生70名を対象に全世界の人びとと新しい豊かな世界に向けて行動する人財を育成する事業。
実施時期	2019年6月8日(土)、2019年6月9日(日)、2019年6月22日(土)、2019年7月27日(土) 2019年8月3日(土)、2019年8月17日(土)、2019年8月24日(土)、2019年8月25日(日)
場 所	ナレッジキャピタルコンベンションセンター 新梅田研修センター 大阪府中央卸売市場 みくりや青果株式会社 東洋インキ株式会社 中之島ダイビル24階 Osaka Innovation Hub
参加人數目標・報告	目標： 高校生70名 結果： 高校生70名
実施方法の工夫	大阪府下の高校(偏差値で50以上とする)140校を対象に事業参加者募集を行い、10校以上の学校訪問を行い経営者志願の参加者を集めました。 また、彼らが高校の授業で普段体験することのない毎月の講演や企業訪問、ディスカッション、グループワーク、ディベート、ビジネスプランを通じて新たな自分の可能性や価値観を見つけられるよう事業を実施しました。
事業目的に達した点	事業初日のアンケートより、事業最終日のアンケート結果にて参加者の大幅な意識向上が確認できました。 事業を通じ、88.41%(参加前より22.69%の上昇)の起業意識を与えることができました。 また、起業準備、アイデアを持たせることについては、82.61%(参加前より59.75%の上昇)となりました。。 さらに起業アイデアについて、「ない」との回答が0%となり、参加者全員の意識を変化させることができ、事業目的を達成できました。
事業目的に達しなかった点	なし



世界の「善」創造室



理事
共通価値発信委員会 委員長
山岸 将幸
Masayuki Yamagishi

私たち共通価値発信委員会は、「SDGs半端ないって!セミナー」と「SDGs甲子園」と称して大阪に住み暮らす人びと(特に中小企業経営者及び士業の方々)を対象に、共通価値を発信しSDGsを推進し世界が抱える課題を解決できる人財を創出する事業を実施致しました。

まず、「SDGs半端ないって!セミナー」では当初の予定を大きく超える参加があり、223名の中小企業経営者及び士業の方々にご参加いただきました。SDGsってなに?SDGs知っているけどどうやって社業に導入するの?という方々を対象にまずはSDGsを理解していただき、そしてどのように社業に導入していくかまでを目的としてセミナーを開催させていただきました。

そして「SDGs甲子園」では「SDGs半端ないって!セミナー」に参加していただいた方がセミナーを通じてどのようにSDGsに取り組んだのか、そして今後SDGsでどのようにイノベーションを起こしていくのかを発表していただくアワードを開催させていただきました。既に世界でイノベーションを起こしているTOYPメンバー6名と、ジャパンSDGsアワードで特別賞を受賞されておられます審査員の方々とのトークセッションもあり、登壇された方はもちろん、参加された方からも称賛のお言葉をいただく事ができました。本事業の開催により、世界が抱える様々な課題を解決する人財を創出できたと考えています。

最後になりますが、本事業にご参加・ご協力いただきました、TOYPメンバー、学校関係者、講師の皆様、協賛企業の皆様に、心より感謝御礼申し上げます。



STAFF

委員長	幹 事	副委員長
山岸 将幸	田中 良明 堀江 祐太郎 山本 祐 瀬戸川 彩	尾上 普美 大屋 貴則 仲摩 陽介 八木 孝紀 柳 千景
委 員		
青山 快鳳 馬木 貴浩 中井 好斗 小川 英俊 上農 真 杉崎 悟 森田 俱亘 岡田 芽真美 山本 隆太郎 浅野 智之 結城 賢作 細川 直人 松本 洋平 草分 陽一 吉田 直也 太田 愛 畢 志鵬 柳原 洋樹 神藤 昌平 藤浪 寛 岡田 慎太郎	福井 絵莉子 佐飛 真梨 松山 奈央 西森 平 増木 大樹 杉浦 健文 濱永 健太 谷口 優亮 大久保 貴子 坂元 靖昌 大村 義道 石坂 省悟 八城 裕 川崎 貴 松田 陽介 山口 敦央 中峯 将文 木下 史也 藤尾 雄一 廣藤 誠人 羽間 龍太	呉本 勝隆 大道 誠 藤井 裕介 三島 大樹 白石 将太郎 巽 宏彰 服部 悠介 後藤 行宏 氏井 康介 谷口 公輝



世界の「善」創造室



理事
世界市民育成委員会 委員長
梶本 秀則
Hidenori Kajimoto

私たち世界市民育成委員会は、～Global Young Academy Osaka(GYAO)～と題し、大阪の高校生を対象に、起業することを通じて世界が抱える課題を解決できる人財を育成する事業を実施致しました。

当初の予定を大きく超える応募があり、約70名の高校生にご参加いただきました。「シェアリングエコノミー」をテーマに、各界で活躍されている多彩な講師陣をお招きし、基調講演やグループワーク、ディスカッション、合宿を行いました。企業を訪問し、企業がどのようにしてSDGsの達成に向けた取り組みを行っているかを体感していただきました。新しい資金調達方法であるクラウドファンディングも実践しました。

約3か月間のプログラムの締めくくりとして、高校生に、学んだ知識を踏まえたビジネスプランの構築、プレゼンテーションをしてもらいましたが、高校生らしい斬新なアイデアで、実現可能性も高いビジネスプランが発表され、講師陣も目を見張っておられました。

本事業により、企業を通じて、世界が抱える様々な課題を解決する人財を創出できたと考えています。また、参加した高校生の保護者や学校の先生方からも、貴重な経験になったようだと高い評価をいただいております。

最後になりますが、本事業にご参加・ご協力いただきました、高校生、保護者、学校関係者、講師の皆様、協賛企業の皆様に、心より感謝御礼申し上げます。



STAFF

委員長	幹 事	副委員長
梶本 秀則	金光 一輝 川口 晃司 松田 裕介 吉川 可菜子 和田 篤樹	石橋 達也 竹川 哲司 野村 均 細田 誠一 丸山 正人
委 員		
明田 佳樹 池田 篤司 池田 保栄 伊藤 昌紘 井上 亜依 井上 晃利 宇都宮 和加人 浦本 佳則 大木原 正祥 大澤 一慶 大城 龍一 大村 雅祥 岡田 裕作 尾形 麗 小川 将史 小野 貴弘 香川 正和 河合 聰 菊池 龍二 木下 沙織 日下 亮太	黒田 健夫 酒井 七郎 坂口 浩聰 坂本 裕喜 佐々木 雅弥 澤田 昌孝 茂見 尚希 宍戸 俊文 下岡 佑一郎 高橋 裕治 竹上 新治 伊達 則幸 田中 洋一郎 田之上 真也 辻本 卓也 津田 将吾 中野 星知 野田 賢太郎 野津 正守 八崎 将志 林 裕満	原 英彰 半田 朗子 半田 貴子 福田 昌也 文岩 龍郎 細川 貴之 光本 健吾 矢吹 保博 山田 倫久 山本 遊 吉武 涼子

05.

渉外室

国内渉外委員会 国際渉外委員会

室テーマ

善が多層的につながる循環を生み出そう！



常任理事
渉外室 室長

刀祢 達哉

Tatsuya Tone



常任理事
渉外室 副室長

田中 克憲

Katsunori Tanaka

本年は、常任理事 渉外室 室長として、「善が循環する国際都市大阪」の実現をめざして参りました。

渉外室では、「善が多層的につながる循環を生み出そう！」をテーマに、未来を切り拓く120余名の青年とともに善が循環する都市の姿を想い描き、世界の変化を受け止める気概を持ち、受け継がれてきた信頼と実績を進化させ、より広域なつながりで、枠を越えて善を循環させていくメンバーを創り出すべく活動を行って参りました。そして、各委員会のメンバー一人ひとりが当事者意識をもって、受け継がれてきた目に見えない資産を大きく力強くする気概を有し、未だ見ぬ新たな可能性に向けて積極果敢に挑戦を続ける意志を確立し、社会から託された青年経済人としての責務を果たす志を抱き、他に善かれかしの精神で有機的な連携を拡げ、いきとしきるものへの感謝の念を受け継ぎ、善を循環させる推力としての役割を果たし続ける青年へと導いて参りました。

国内渉外委員会では、大阪青年会議所の代表者として日本青年会議所に出向していただいているメンバーの皆様の活動をお支えするのと同時に、年始よりSDGsの推進活動を大阪青



年会議所メンバーに広く知っていたく機会を提供して参りました。そして、国際渉外委員会では、JCI金沢大会、ASPAC済州大会、世界会議タリン大会と諸外国との連携を行い、また本年度は、小嶋理事長がJCI常任理事副会頭選挙に当選され大阪青年会議所メンバーだけでなく日本は元より世界各国の多くの方々のご支援を賜る機会となりました。

渉外室は、2019年度の活動を通して、他に善かれかしの精神で行動する気概に溢れた一人ひとりのメンバーの活躍によって、善を循環させる推力としての役割を果たし続けたことで、善が循環する国際都市大阪の実現への一助となつたと確信しております。1年間、誠に有難うございました。

国内涉外委員会

基本方針 善を循環させる推力として中核を担うメンバーを増やします。

事業計画 私たちは、縦横無尽に拡がるつながりを認識し、誰一人取り残さない世界の実現に向けた取り組みに关心を抱き、ゆるぎない意志で新たな革新を生む気概を有し、思い描く理想の姿へ向かう行動力を携え、善を循環させる推力として中核を担うメンバーを増やします。

事業報告

第52回 京都会議

事業内容	日本JC事業への参加促進及び支援
実施時期	2019年1月17日(木)～2019年1月20日(日)
場所	国立京都国際会館 グランドプリンス京都 他 京都市各所
参加人數目標・報告	目標： 300名 結果： 292名
実施方法の工夫	157名のご出向の皆様にLOMの支援を感じていただけでなく、SDGsの推進についてLOMのメンバーの皆様の意識が高まるように致しました。
事業目的に達した点	大阪JCのメンバーが一同に会し、出向者の門出を祝うとともに、善を循環させる推力として中核を担うメンバーを増やすことができました。
事業目的に達しなかった点	参加目標300名に対し実際の参加は292名と一部達成することができませんでした。

近畿地区 亀岡大会

事業内容	日本JC事業への参加促進及び支援
実施時期	2019年7月6日(土)～2019年7月7日(日)
場所	ガレリアかめおかコンベンションホール 亀岡駅北広場
参加人數目標・報告	目標： 392名 結果： 271名
実施方法の工夫	出向者の支援だけでなく、LOMメンバーさんが出向に興味を持っていただけけるようメンバー参加型の出店を行い、他LOMの方とのコミュニケーションが取れるよう致しました。
事業目的に達した点	大会式典・フォーラムを通じて得た気付きや学びをLOMに持ち帰り、思い描く理想の姿へ向かう行動力を携えてもらうことができました。 16名の出向者を支援致しました。
事業目的に達しなかった点	参加目標392名に対し実際の参加は271名と一部達成することができませんでした。

サマーコンファレンス2019

事業内容	日本JC事業への参加促進及び支援
実施時期	2019年7月19日(金)～2019年7月21日(日)
場所	パシフィコ横浜 他 横浜市各所
参加人數目標・報告	目標： 335名 結果： 274名
実施方法の工夫	会場や各ファンクションで実際に活躍している同志の姿を見聞きし、同志の使命感と情熱によって創出されていることを認識してもらうだけでなく、自己成長へも繋げていただくように致しました。
事業目的に達した点	参加していただきましたメンバーの皆様に搖るぎない意志で新たな革新を生む気概を有する意識を高めることができました。 123名の出向者を支援致しました。
事業目的に達しなかった点	参加目標335名に対し実際の参加は274名と一部達成することができませんでした。

第48回 岡山大阪交歓会

事業内容	LOM間交流の推進
実施時期	2019年7月24日(水)
場 所	大阪市各所
参加人數目標・報告	目標： 42名 結果： 40名
実施方法の工夫	新たな試みとして、グループディスカッションを実施し、メリハリのある交流となりました。
事業目的に達した点	岡山JC、大阪JCの掲げるスローガンの実現を達成するための議論をする事で相互にとって持続的に発展するパートナーシップを構築することができました。
事業目的に達しなかった点	なし

第68回 全国大会 富山大会

事業内容	日本JC事業への参加促進及び支援
実施時期	2019年10月10日(木)～2019年10月13日(日)
場 所	富山市各所
参加人數目標・報告	目標： 200名 結果： 台風のため中止 懇親会参加： 125名
実施方法の工夫	台風のため中止となりましたが、懇親会では、委員会一丸となって出向者の皆様や卒業されるメンバーの皆様を労える設え(のぼり)の掲揚)を致しました。
事業目的に達した点	出向者の皆様を支援する、また卒業生の皆様のこれまでの功績に感謝と敬意をお伝えする目的を達成できました。
事業目的に達しなかった点	大会期間中の台風19号接近の影響により、参加者の安全確保の観点から本事業は中止となつたため、検証はできませんでした。

国際涉外委員会

基本方針 他に善かれかしの精神で有機的な連携を実現するメンバーを増やします。

事業計画 私たちは、持続可能な世界を志向する活動に关心を抱き、多様な価値観を受け止める柔軟な精神性を携え、受け継がれてきた資産を深化する気概を有し、より良い未来を形成する行動力を備え、他に善かれかしの精神で有機的な連携を実現するメンバーを増やします。

事業報告

金沢会議への参加促進及び支援

事業内容	事業目的 世界の持続的な発展に向けて課題解決に取り組んでいる人びとの先進的な事業の構築や利他的な精神性に触れる機会を提供することで、持続可能な世界を志向する活動に关心を抱くメンバーを増やします。 【内容】 JCIへの出向者支援 マニュアルを作成し涉外業務をとりまとめると共に、2019年度を通じて、渉外の基礎業務を蓄積し、LOMのさらなる発展の底上げを致します。
実施時期	2019年2月22日(金)～24日(日)
場所	金沢市内各所
参加人數目標・報告	目標： 130名 結果： 104名
実施方法の工夫	①JCI大阪メンバーへ大会情報を発信 大会スケジュール、各種プログラム、セミナーをメンバーに発信します。大阪JCのHP、委員会ML、LINE@での告知により大会への参加を促進させます。 ②参加者マニュアルの配信 出向者支援を狙いとして、出向者名簿、会場までのアクセスなどを記載したマニュアル配信により、大会への参加を促進させます。 ③LOMランチョンの実施 活躍している出向者を紹介する場を設けることで、出向者支援を促進させます。 また、LOMランチョン以降に行われる大会プログラム紹介の機会を設けることで、SDGsへの理解を深め、各種プログラムへの参加意欲を促進させます。
事業目的に達した点	アンケート設問1、「金沢会議に参加し持続可能な世界を志向する活動に关心を抱くことができましたか?」、設問2、「金沢会議に参加し、世界の持続的な発展に向けて課題解決に取り組んでいる人びとの先進的な事業の構築や利他的な精神性に触れることができましたか?」の問い合わせに対し、「十分」、「ほぼ十分」の回答が90%以上という結果が得られました。
事業目的に達しなかった点	参加人数が目標を下回った点

ASPAC済州大会への参加促進及び支援

事業内容	事業目的 ASPAC済州大会への参加促進及び支援 【内容】 ASPAC参加メンバーのサポート
実施時期	2019年6月17日(月)～20日(金)
場所	済州各所
参加人數目標・報告	目標： 120名 結果： 143名
実施方法の工夫	①ジャパンナイトへの参画 多様な価値観に触れることのできる場において、大阪の魅力を発信するブース出展を行うことで、様々な価値観に触れるにより大阪の魅力を再確認していただきます。 ②参加者マニュアルの作成 参加者マニュアルを作成することにより、各ファンクションへのスムーズな参加、済州の観光スポットへ移動、簡単な韓国語での円滑なコミュニケーションをとつていただく事で、国際社会をより身近に感じていただきます。
事業目的に達した点	100名のメンバーに大会参加していただきました。
事業目的に達しなかった点	なし

世界会議タリン大会への参加促進及び支援

事業内容	事業目的 より良い未来を形成する行動力を備え、他に善かれかしの精神で有機的な連携を実現するメンバーを増やします。 【内容】 ・大会並びに各種プログラムへの参加促進 世界会議タリン大会での総会、アワード、各国ナイト、ジャパンナイト、LOMランチョン、GALAにおいて、文化や環境の違いから生み出された新たな価値観に触れる機会への参加促進を図り、世界中のJCメンバーと交流する機会を提供します。 ・ジャapanナイトブース出展 新たな価値観に触れることのできる場において、大阪の魅力を発信するブース出展を行うことで、様々な価値観に触れることによって大阪の魅力を再確認していただきます。
	実施時期 2019年11月4日(月)～8日(金)
場 所	エストニア タリン各所
参加人數目標・報告	目標： 70名 結果： 86名
実施方法の工夫	小嶋EVP立候補者の支援を行うことで世界中の同志たちが有する知識や経験に触れ、互いに響き合うことで生まれる相乗効果により、他に善かれかしの精神で有機的な連携を実現するメンバーが増えました。
事業目的に達した点	100名のメンバーに大会参加していただきました。
事業目的に達しなかった点	なし



涉外室

一般社団法人 大阪青年会議所

国内涉外委員会



理事
国内涉外委員会 委員長
槻 和也
Kazuya Masu

私たち、国内涉外委員会は「善が循環する国際都市大阪」の実現をめざして未来のために善を循環させる推力としての中核を担うメンバーを増やす運動を展開して参りました。

新年は、京都会議からはじまり、出向者の門出を祝うとともに、支援態勢の構築と伝統を受継ぐ大阪青年会議所メンバーとしての責任感を高めました。そして、友好LOMでもあります岡山青年会議所との48回目となる交歓会を開催し、新たな試みにも挑戦致しました。岡山青年会議所とは互いの都市の発展に向けての協力関係を再認識することができました。サマーコンファレンス2019では、日本青年会議所の本年度の運動の中間地点として、出向者の活動をより深く知り学び合い、さらなる活躍とつなげていくことのできる関係を確立しました。さらに、第68回 全国大会 富山大会への参加では、台風による荒天の中、共に活動をしてきた仲間たちの卒業を祝い、また、出向者の集大成を最後まで支援し、さらなる目標を達成する意欲を向上させることができました。

最後に、1年間通じてSDGsを普及させるための創意工夫を行い、メンバーのJC活動への意欲向上、それぞれの社業に役立つよう努めて参りました。以上の活動を通じて、私たち国内涉外委員会が目的とする未来のために善を循環させる推力としての中核を担うメンバーを増やすことができたと確信しております。



STAFF

委員長	幹事	副委員長
槻 和也	赤代 理史 山科 直之 豊川 慧海 岩田 砂衣子 満丸 一樹	高橋 究 小島 雅士 山下 領太 有得 昌吾 土山 貴浩
委員		
濱村 充哉 川崎 伸也 高野 雅史 磯貝 克樹 芦野 竜介 玉井 幸介 宮崎 真典 竹内 大翼 上野 歩 吉本 一美 村田 陽一 緒方 真悟 寺田 一弥 録家 直之 上河 全巧 濱 千孝 村上 直也 安東 裕明 中谷 亜弥 生田 晴之 岩佐 公達	西尾 翼 川邊 寛治 菅 繁伸 中造 真一郎 八尾 良介 大西 潤 福岡 厚志 堀北 晶子 四十宮 麻美 北野 憲二 河原 由次 永井 亜樹 赤田 純也 中岡 孝 山田 麻香 村上 秀信 羽原 功峻 池田 陽一 中村 真仁 大串 安弘 勝亦 謙介	久保 武範



涉外室

国際涉外委員会



理事
国際涉外委員会 委員長
内本 明伸
Akinobu Uchimoto

私たち国際涉外委員会では、「善が循環する国際都市大阪の実現」に向けて、メンバーを対象に持続可能な世界を志向する活動に关心を抱き、多様な価値観を受け止める柔軟な精神性を携え、受け継がれてきた資産を深化する気概を有し、より良い未来を形成する行動力を備え、他に善かれかしの精神で有機的な連携を実現するメンバーを増やすべく、運動を展開して参りました。

2月に行われました金沢会議では出向者の皆様の支援とファンクション参加を通じて世界の持続的な発展に向けて課題解決に取り組んでいる人びとの先進的な事業の構築や利他的な精神性に触れていただき、持続可能な世界を志向する活動に关心を持っていただけたと考えております。

6月のASPACや11月の世界大会では、ジャパンナイトや各国ナイト、GALAといった、文化や環境の違いから生み出された新たな価値観に触れていただくことで、世界中のJCメンバーとの交流が生まれ、国際社会を身近に感じていただくことができました。

結びとなりますと、当委員会の事業構築、実施にあたり、多大なるご支援、ご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。1年間、誠にありがとうございました。



STAFF

委員長

内本 明伸

幹事

阪本 剛司
柴田 侑典
友藤 忠昭
濱元 優多佳

副委員長

朝田 繕行
岩本 樹明
小居 雅司
清水 康秀
玉山 泰章

委員

尾崎 誠人	佐伯 韶也	井尻 典克
菅野 佐紀	片畠 博貴	高松 忠紀
橋川 亜紀	高山 匠貴	中馬 和子
稻見 育大	永本 宗秀	荒木 星
中川 晋輔	横尾 真法	武田 大輔
清水 大吾	原 和也	半田 亮
国井 信男	道野 弘済	多田 雄一
岩佐 仁美	笹川 理	
石原 義明	中村 佳織	
岩垣 太郎	松根 龍一	
南 絵里奈	清水 友大	
本田 泰河	溝渕 太一	
藤原 弘行	友野 隆光	
山本 義継	古川 景	
西川 晃司	石橋 弘子	
伊藤 良夏	坂 幸樹	
山田 隆則	植田 学	
植本 彰	金山 純彰	
小原 佳人	中村 宜嗣	
原田 誉之	高橋 佑太	
嵯峨根 照道	久保 えりか	

06.

総務室

総務特別委員会
会員資質向上委員会
広報戦略委員会

室テーマ

善の循環を広げる組織であり続けよう！



常任理事
総務室 室長

島田 直樹

Naoki Shimada



常任理事
総務室 副室長

田中 昌浩

Masahiro Tanaka

平成から新しい時代を迎つつある現在、時流をつかむ柔軟性と時代を動かすエネルギーを最大限に發揮しなければなりません。長らく織りなされてきた信頼と実績を継承し、唯一無二のプロボノ団体として情熱的かつ機動的に挑戦し続ける組織が必要だと考えました。

本年度、総務室では、そのために、先人から紡がれてきた普遍の輝きを受け継ぎ、組織の信頼と実績を持続的に発展させる責任感を有し、あらゆる変化を受け止める柔軟な思考を携え、機動的に挑み続ける搖るぎない意志を確立し、善の循環の推力を担い続けていくメンバーを創出すべく、運動を展開して参りました。

総務特別会議では、予定者段階で実施したスタッフセミナー、年初に1年間の方針をメンバー全員で共有する池田会議を実施させていただきました。そして、総会、理事会、各会議体運営に関する準備と調整を行い、大阪青年会議所の組織運営の要として活動して参りました。

会員資質向上委員会では、全メンバーを対象に、各種セミナーの開催、各月月例会の実施、先輩諸兄との交流を図るOB現役交歓会の実施、そして1年間の功績を共有する会員大会

を実施し、会員の資質を向上すべく活動させていただきました。

広報戦略委員会では、年初に1年間の運動方針を発信すべくポリシーブックの発刊、原田環境大臣をお招きして開催させていただいた新年名刺交換会、アワードセミナーの開催、年間を通じての広報活動を行いました。

今年度、私たちの目的を達成することができ、善が循環する国際都市大阪の実現への一助となったと確信しております。ご協力いただいた多くの皆様には深く御礼申し上げます。1年間、誠にありがとうございました。



総務特別会議

基本方針 善の循環の推力を担い続けていくメンバーを創出します。

事業報告

スタッフセミナーの企画と実施

事業内容	副委員長予定者、各幹事予定者に対してのセミナーを実施し、善の循環の推力を担い続けていくメンバーを創出します。
実施時期	2018年11月24日(土) 2019年1月12日(土)
場所	リーガロイヤルNCB松の間 不死王閣
参加人數目標・報告	目標：副委員長予定者65名、幹事予定者60名 結果：副委員長予定者48名、幹事予定者53名
実施方法の工夫	円卓レイアウトにて委員会ごとに配置を行いました。幹事セミナーでは、幹事別に分かれて幹事経験者から実務を中心に講演を実施しました。セミナー後は全体懇親会を行い、スタッフ同士、各委員会の懇親を図る事ができました。
事業目的に達した点	アンケートにて各セミナーの理解度が目標数値に達し、次年度スタッフの役割を理解していただく事ができました。
事業目的に達しなかった点	参加目標人数に達しませんでした。

池田会議の企画と実施

事業内容	池田会議を通じて1年間の方向性を会員と共有し、善の循環の推力を担い続けていくメンバーを創出します。
実施時期	2019年1月12日(土)、13日(日)
場所	不死王閣
参加人數目標・報告	目標：496名 結果：486名
実施方法の工夫	大懇親会にて大阪青年会議所の組織に関わるアトラクションを行い、組織運営について触れていただきました。翌朝にはSDGsについての全体勉強会を実施しました。
事業目的に達した点	定時総会、室会議、委員会、大懇親会について十分理解していただく事ができました。
事業目的に達しなかった点	参加者が目標に達しませんでした。

第38回わんぱく相撲大阪市大会懇親会の企画と実施

事業内容	第38回わんぱく相撲大阪市大会後の企画と実施をおこないました。
実施時期	2019年5月11日(日)
場所	宴会天国 味園
参加人數目標・報告	目標：236名 結果：309名
実施方法の工夫	特に会員開発特別委員会の新入会員、小委員会にスポットを当てる進行を行うことで、大阪青年会議所の楽しさを感じていただける設営を行いました。
事業目的に達した点	アンケートにて、「善の循環を感じる事ができた」の回答率が82%に達し、本事業を通じて参加メンバーに善の循環を感じてもらう事ができました。
事業目的に達しなかった点	なし

会員資質向上委員会

基本方針 他に善かれかしの精神で挑戦を続けるメンバーを創出します。

事業計画 私たちは、創始の想いから積み重ねた信頼と実績を理解し、多様な価値観を受け止める感性を携え、学んだ経験を次世代へ贈り継ぐ意志を有し、同志とのつながりを強固にする行動力を備え、同志とともに他に善かれかしの精神で挑戦を続けるメンバーを創出します。

事業報告

会員資質向上事業

事業内容	会員資質向上事業(JCIセミナー事業)の企画と実施を通じて、学んだ経験を次世代へ贈り継ぐ意志を有したメンバーを創出します。
実施時期	2019年3月～2019年10月
場所	大阪青年会議所事務局 大阪市立総合生涯学習センター
参加人目標・報告	目標： JCIセミナー375名 特別セミナー130名 結果： JCIセミナー427名 特別セミナー159名
実施方法の工夫	JCIセミナーは推奨対象者を明確にした参加促進を行いました。特別セミナーでは実施前にアンケートを行い、選定し興味をもってもらいやすい事業実施と致しました。
事業目的に達した点	多くのメンバーに参加いただくことで、学んだ経験を次世代へ贈り継ぐ意志を有したメンバーを創出することができました。
事業目的に達しなかった点	第2回VMVセミナー、Achieve／Impact／Adminセミナーにおいて、参加人数が目標に達しませんでした。

会員資質向上事業(家族例会)

事業内容	会員資質向上事業(家族例会)の企画と実施を通じて、多様な価値観を受け止める感性を備えるメンバーを創出します。
実施時期	2019年6月15日(土)
場所	グランフロント大阪 うめきた広場
参加人目標・報告	目標： メンバー出席者591名 一般参加者300名 結果： メンバー出席者334名 一般参加者174名
実施方法の工夫	メンバーの家族が参加できる家族月例会として実施するとともに、未来会議ファミフェスのプログラムとして実施しました。
事業目的に達した点	SDGを発信する会場で実施したことで多様な価値観を受け止める感性を備えたメンバーを創出できたと考えます。
事業目的に達しなかった点	参加予定人数が全体の60%を予定していたが、達成できませんでした。

月例会の企画と実施

事業内容	月例会・公開例会の企画と実施を通じて、同志とのつながりを強固にする行動力を備えるメンバーを創出します。
実施時期	2019年1月～2019年11月
場所	帝国ホテル大阪 不死王閣 エル・おおさか
参加人目標・報告	目標： メンバー出席者4169名 一般参加者300名 結果： メンバー出席者3680名 一般参加者288名
実施方法の工夫	TV局東京MXとのコラボレーションとしてTV収録を兼ねた公開月例会、メンバー4人と講師のトークセッション、講師のプレゼンテーション、全委員会メンバーによる事業報告会、講師講演と様々実施して参りました。 また、本年度の月例会ではメンバーによる大阪をより良くするためのアイデアや想いを発信する機会としてプレゼンテーション企画「WITH」を年に渡り実施しました。
事業目的に達した点	多様な実施方法で本年度の理事長所信を理解し同志とのつながりを強固にする行動力を備えたメンバーを創出できました。
事業目的に達しなかった点	事前告知がスムーズに行えず予定していた参加人数に達することができませんでした。

OB現役交歓会の企画と実施

事業内容	OB現役交歓会の企画と実施を通じて、創始の想いから積み重ねた信頼と実績を理解してもらいます。
実施時期	2019年8月6日(火)
場所	リーガロイヤルホテル大阪 光琳の間
参加人數目標・報告	目標： OB:170名 現役:370名 合計:540名 結果： OB:329名 現役:107名 合計:436名
実施方法の工夫	大阪青年会議所の歴史を振り返る映像を制作し創始の想いから積み重ねてきた信頼と実績を理解していただけるようにしました。
事業目的に達した点	様々な事業が過去から受け継がれてきた信頼と実績の上にあると理解していただきました。
事業目的に達しなかった点	目標人數を下回ることになりました。

会員大会の企画と実施

事業内容	会員大会の企画と実施を通じて、同志とともに他に善かれしの精神で挑戦を続けるメンバーを創出します。
実施時期	2019年12月11日(木)
場所	ホテルニューオータニ大阪 2階 凤凰の間
参加人數目標・報告	目標： OB66名 同伴者15名 現役564名 結果： OB74名 同伴者15名 現役565名
実施方法の工夫	会場選定、事業プログラムの構成を変更し、アワード、理事長引継ぎ式、卒業式、エンタメを通じて、一体感を最終最後まで持続できるよう工夫致しました。
事業目的に達した点	メンバーが一堂に集い感動を共有することで、同志とともに他に善かれしの精神で挑戦を続けるメンバーを創出することができました。
事業目的に達しなかった点	なし

広報戦略委員会

基本方針 組織の運動を効果的に内外へ轟かすメンバーを増やします。

事業計画 私たちは、先人が紡いできた志と矜持を受けとめる感性を有し、積み重ねた知識と経験を次世代に贈り継ぐ意欲を携え、変化する世界の時流を捉える柔軟性を備え、仲間たちと共に発信を続ける気概を有し、組織の運動を効果的に内外へ轟かすメンバーを増やします。

事業報告

新年名刺交換会の企画と実施

事業内容	新年名刺交換会を通じて、先人が紡いできた志と矜持を受けとめる感性を有するメンバーを増やします。
実施時期	2019年1月8日(火)
場所	リーガロイヤル大阪 山楽の間
参加人數目標・報告	目標： OB170名 現役430名 結果： OB159名 現役392名
実施方法の工夫	現役大臣である原田環境大臣をお招きました。OBまた現役メンバーに対してSDGsに取り組む方針をお伝えしました。
事業目的に達した点	先人が紡いできた志と矜持を受けとめる感性を有するメンバーを増やすことができました。
事業目的に達しなかった点	参加目標人数に達しませんでした。

褒章事業へのエントリー調整

事業内容	褒章事業へのエントリー調整を通じて、仲間たちと共に発信を続ける気概を有するメンバーを増やします。
実施時期	2019年3月1日(金)
場所	大阪青年会議所事務局
参加人數目標・報告	目標： メンバー出席者:591名 一般参加者:300名 結果： メンバー出席者:334名 一般参加者:174名
実施方法の工夫	前年度、日本青年会議所へ褒章委員会副委員長として出向していた戎健太郎先輩を講師としてお招きし、エントリーのポイントをお伝えしました。
事業目的に達した点	エントリー方法、褒章の意義目的を理解していただく事ができました。
事業目的に達しなかった点	受賞には至りませんでした。



総務室

総務特別会議



常任理事
総務特別会議 議長
島田 直樹
Naoki Shimada

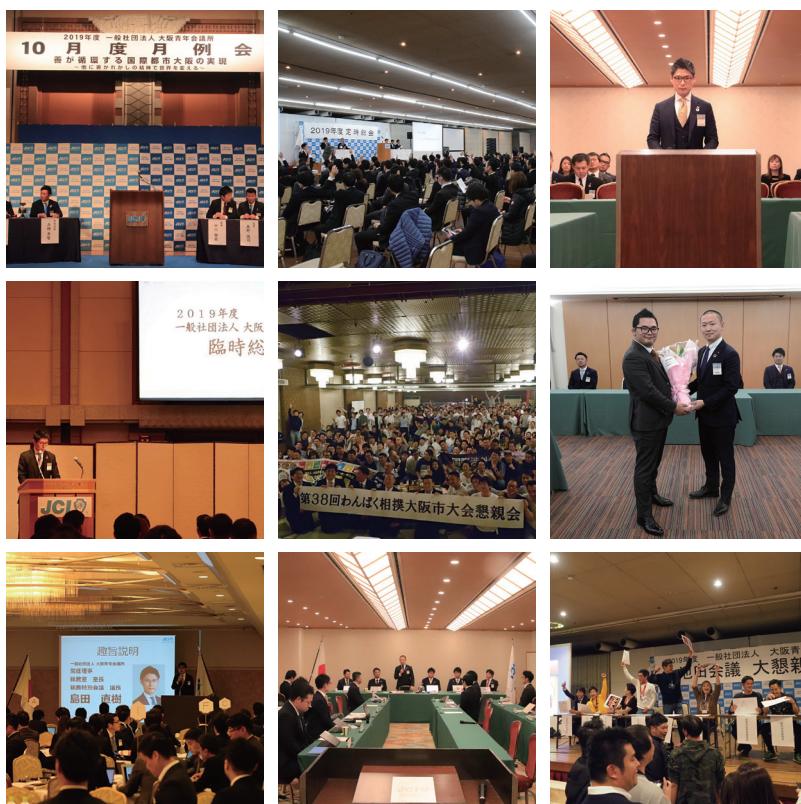
総務特別会議では、組織の要として善の循環の推力を担い続けていくメンバーを創出すべく活動をして参りました。

まずは予定者の段階から構築したスタッフセミナーの開催、年初に行われる池田会議の企画設営及び運営に始まり、総会の設営と運営、毎月行われる理事会、常任理事会、財務規則審議会の運営と設営、理事選挙における投票準備、委員会間の情報共有の為に事務局との連携を通じた情報発信、2019年度基本資料の作成と整備などを行なって参りました。

池田会議の臨時総会では、2019年度の室方針、委員会事業計画の事業イメージをつけて全メンバーに説明することにより、各委員会がどのような運動を展開していくかの共有をすることができました。また、総会後に室会議を行うことにより各室の方向性を共有することができました。大懇親会では、基本資料等から組織に関わる設問を出題する事により、意識の向上を図る取組みを実施しました。

財務規則審議会では、開催前に事前に会議メンバーによる予算書及び添付資料の確認を行い、体裁に不備がないかどうか、そして総務室長・委員長の面談と合わせてチェックを行いました。全ての事業に対して円滑かつ効果的な運動を発信できるように下支えを行い、大阪青年会議所の運営に対して深く関わる事で、善の循環の推力を担い続けていくメンバーを創出する事ができました。

1年間、本当にありがとうございました



STAFF

議長	幹事	副委員長
島田 直樹	音野 顯宏 帖佐 加代子 坂上 洋平 下門 雅士 杉原 健太	木下 伸二 藤井 準 渡邊 智仁 澤田 武志 藤井 啓太
委員		
金本 洪一 狩野 雅彦 阪倉 篤史 中原 明日香 辻 秀明 山下 和政 世古口 佳典 池田 あすか 坂口 央 神谷 幸代実 磯田 達也 杉田 哲明 米谷 素明 福永 寿子 井龜 誠之 稻森 康 斎藤 亮太 田邊 武志 三宮 規尊 関谷 昌子 山崎 豪士	山田 竜輔 北野 真巳 土岐 勝 大和 大司 中島 聖智 辻 亮 田中 威之 上原 大助 牛渡 裕也 佐伯 太郎 小林 裕典 青木 将光 増永 充浩 中嶋 隆則 政保 翔 伊藤 博規 龜澤 範行 中桐 和也 井本 哲平 芝垣 佳代子 前田 嘉博	櫻井 博



総務室



理事
会員資質向上委員会 委員長
辻 光哉
Mitsuya Tsuji

私たち、会員資質向上委員会では、「善が循環する国際都市大阪の実現」に向けて大阪青年会議所メンバーを対象に、創始の想いから積み重ねた信頼と実績を理解し、多様な価値観を受け止める感性を携え、学んだ経験を次世代へ贈り継ぐ意志を有し、同志とのつながりを強固にする行動力を備え、同志とともに他に善かれかしの精神で挑戦を続けるメンバーを創出するべく、運動を展開して参りました。

1月度の月例会を皮切りに、今年度は多様なプログラムを展開することを通じて、メンバーの理事長所信に対する理解を深め、また活動に対する期待感も高めて参りました。具体的には、講師と理事長による対談の後のダンスセッション、TV局東京MXとのコラボレーションとしてTV収録を兼ねた公開月例会、メンバー4人と講師のトークセッション、講師のプレゼンテーション、全委員会メンバーによる事業報告会、講師講演と様々実施して参りました。また、本年度の月例会ではメンバーによる大阪をより良くするためのアイデアや想いを発信する機会としてプレゼンテーション企画「WITH」を通年に渡り実施しました。メンバー自らが創る月例会となる他に善かれかしの精神で挑戦を続ける場となりました。

また、本年度はJCIセミナーを12回、特別セミナーを2回開催し、メンバーの学んだ経験を次世代へ贈り継ぐ意志を育んでいただくべく実施して参りました。JCIセミナーでは新たなトレーナー登録者を輩出しました。特別セミナーでは事前アンケートを基に選定し目標を122%上回る参加者数となりました。

家族会では6月度グランフロント大阪にて行われました未来会議内で月例会を通じて、多様な価値観を受けとめる感性を磨くべく事業を実施しました。

そして、1年間の集大成である会員大会においても、1年間の運動の成果を振り返り、未来へと挑戦を続ける意志と気概を高め合う機会となりました。

結びになりますが、弊会の事業実施に当たり、ご支援、ご協力いただきましたすべての皆様に感謝を申し上げます。1年間本当にありがとうございました。



STAFF

委員長	幹事	副委員長
辻 光哉	林 建太郎	谷村 英高
	清水 政憲	川畠 太介
	磯久 五郎	宮城 裕美
	小谷 知也	池田 大介
	高瀬 樹	川寄 啓伍

委員

秋田 俊幸	川端 信太朗	本田 剛士
浅岡 保裕	河原 圭佑	松野 徹也
浅田 雄太	北爪 孝亮	三島 徹
渥美 宙	葛川 聖大	村林 純里
新井 一秀	久米 昂	安田 圭佑
井野 良子	小林 泉	山口 陽新
今井 宏美	近藤 陽介	燕 直斗
岩永 将至	佐藤 豊浩	米澤
上野 康公	高林 央	
宇都宮 雄亮	田中 崇雄	
浦田 恭資	徳田 聖也	
大西 正敏	中道 正彦	
岡田 良哉	中本 誠也	
岡部 芳明	中山 晓	
岡本 貴行	西涌 修平	
小倉 健宏	林 沙織	
小椋 雄司	廣田 歌菜穂	
小田桐 健太郎	藤井 堅司	
加藤 元之	藤本 裕輔	
叶 郁美	北條 恵美	
川瀬 裕介	堀川 泰弘	



広報戦略委員会



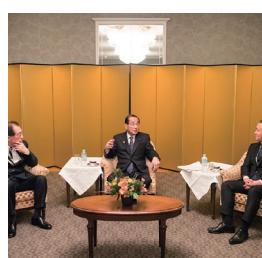
理事
広報戦略委員会 委員長
長野 裕樹
Yuki Nagano

私たち広報戦略委員会では、「善が循環する国際都市大阪の実現」に向け、組織の運動を効果的に内外へ轟かすメンバーを増やす事を目的に1年間活動して参りました。

まず年始に開催させていただきました新年名刺交換会では現役メンバー、OB諸兄共に多くのご参加をいただきました。1年間の運動方針、役員のご紹介をおこない、新たな取り組みとして原田環境大臣をお招きし、SDGsの達成に向けたご講演を賜りました。

また年始にあわせ、2019年度のポリシーブックを作成し、会員の皆様へ1年間の方向性を発信させていただきました。褒章事業へのエントリー調整では、褒章の重要性、エントリー方法等を共有するセミナーを実施致しました。広報面では、通年使用し易いホームページレイアウトの作成、各種SNSでの広報発信、各事業の記録をおこないました。

ご協力いただきました皆様、1年間有難う御座いました。



STAFF

委員長	幹事	副委員長
長野 裕樹	乾 菜月 樹 丈文明 鈴木 康一郎 橋崎 賢也 中榮 友幸	森 雄介 藤原 浩貴 石原 佑也 安渡 慶 齊藤 新
委員		
細井 隆二 寺前 雅文 上田 友久 朱条 知子 藤原 翼 梅村 健介 橋本 政則 松田 健作 田村 誠 内田 哲 安井 洋平 北村 亮 眞下 幹弘 保井 美紀 城戸 邦宏 松井 勝吉 範倉 美 竹下 達也 山内 陽平 布川 孝志朗 山本 務	岩野 未来 百鳥 浩基 大南 勝範 青山 修 齊藤 誠一郎 藤原 寛 森 崇絵 和田 敦雄 池田 尚弘 浅野 啓 中村 圭佑 伊藤 絵梨香 森 一平 村上 亮介 松井 豊 奥本 和久 西村 雄大 金井 宏輔 北尾 和真 岩本 啄也 井川 克俊	中岡 祐太 小久保 啓司 大城 晴香

年間月例会

2019.1.12 sat | 15:00



1月度 月例会

ゲスト

南流石 氏
SHINGO ☆西成 氏
(本名: 池上真悟 氏)

場所

不死王閣

2019.6.15 sat | 15:00



6月度 月例会

ゲスト

らんま先生

場所

グランフロント大阪 うめきた広場

2019.2.4 mon | 19:00



2月度 月例会

ゲスト

チャド・マレーン 氏
ナジャグランディーバ 氏
フィフィ 氏

場所

帝国ホテル大阪 3階 孔雀の間

2019.7.29 mon | 19:00



7月度 月例会

ゲスト

丸山ゴンザレス 氏

場所

エル・おおさか 本館2階 エル・シアター

2019.3.19 tue | 19:00



3月度 月例会

ゲスト

舛添 要一 氏

場所

帝国ホテル大阪 3階 孔雀の間

2019.9.20 fri | 19:00



9月度 月例会

本コーカスミーティング

2019.4.23 tue | 19:00



4月度 月例会

ゲスト

そら植物園株式会社 代表取締役
西畠 清順 氏
そら植物園株式会社 大阪事務所
吉濱 弘恵 氏
書家 伊藤 潤一 氏

場所

帝国ホテル大阪 3階 孔雀の間

2019.10.25 fri | 19:00



10月度 月例会

各委員会の取り組み発表

2019.5.30 thu | 19:00



北地域8LOM合同例会

ゲスト

株式会社原田教育研究所
原田 隆史 氏

場所

リツカールトンホテル大阪

2019.11.21 thu | 19:00



11月度 月例会

ゲスト

ワークスマバイルジャパン
株式会社
廣瀬 信行 氏

場所

帝国ホテル大阪 3階 孔雀の間

2019年度褒賞



最優秀会員賞

常任理事
世界の「善」創造室 室長
坂 昌樹



最優秀新人賞

総務室 総務特別会議 運営幹事
帖佐 加代子



最優秀出向者賞

公益社団法人日本青年会議所
組織グループJC拡大会議副議長
総務室 総務特別会議
山田 竜輔



最優秀事業賞

都市ネットワーク構築委員会
都市ネットワーク構築事業の企画と実施



功労賞

副理事長 吉田 直人
常任理事 坂 昌樹
理事 滝本 祐一
理事 檜山 智志



JC運動推進賞

会員開発特別委員会 子どもの創造力育成委員会
森永 雄介 麻生 樹男
子どもの創造力育成委員会 国内涉外委員会
安里 信友 小島 雅士



最優秀委員会賞

国内涉外委員会



月例会多年皆出席賞

世界市民育成委員会
下岡 佑一郎



優秀事業賞

共通価値発信委員会
共通価値発信事業の企画と実施
会員資質向上委員会
月例会の企画と実施



優秀委員会賞

世界市民育成委員会
総務特別会議



優秀会員賞

都市ネットワーク構築委員会 白石 達也	次世代都市デザイン委員会 山野 謙介
国内涉外委員会 高橋 究	共通価値発信委員会 柳 千景
広報戦略委員会 金井 宏輔	国際涉外委員会 清水 康秀
会員開発特別委員会 遠藤 剛紀	総務特別会議 渡邊 智仁
子どもの創造力育成委員会 澤田 昭絵	世界市民育成委員会 野村 均
次世代教育推進委員会 樋木 達也	



優秀出向者賞

日本青年会議所 総務グループ 報道戦略会議 会員資質向上委員会 今井 宏美	
日本青年会議所 社会グループ 土国強靭化委員会 副委員長 次世代都市デザイン委員会 更家 一徳	
日本青年会議所 人材グループ ダイバーシティ推進委員会 副委員長 都市ネットワーク構築委員会 宮野 太津矢	
日本青年会議所 経済グループ 日中関係構築委員会 副委員長 子どもの創造力育成委員会 白原 龍一	
日本青年会議所 社会グループ 制度改革実現会議 副議長 共通価値発信委員会 細川 直人	



優秀新人賞

会員開発特別委員会 三原 一馬	次世代教育推進委員会 山崎 悠太郎
子どもの創造力育成委員会 石川 雅也	次世代都市デザイン委員会 門口 崇彥
都市ネットワーク構築委員会 安藤 豪哉	共通価値発信委員会 堀江 祐太郎
世界市民育成委員会 松田 裕介	国内涉外委員会 山科 直之
国際涉外委員会 柴田 侑典	会員資質向上委員会 小谷 知也
広報戦略委員会 舛 丈明	

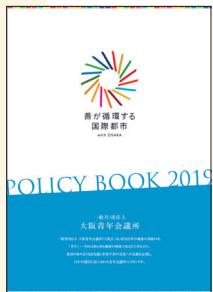


月例会 皆出席賞

会員資質向上委員会 林 建太郎	世界市民育成委員会 野津 正守	国際涉外委員会 朝田 繕行	広報戦略委員会 斎藤 新
国内涉外委員会 菅 繁伸	世界市民育成委員会 和田 篤樹	総務特別会議 木下 伸二	
総務特別会議 音野 顯宏	次世代教育推進委員会 昭野 元宏	会員開発特別委員会 前田 祐三	

広告制作物媒体

ポリシーブック 2019



MIRAI 防災リーダーズ



SDGs MIRAI KAIGI



キッズアドベンチャー



SDGs 半端ないって!セミナー



Colors - カラーズ -



SDGs 甲子園×TOYP



OSAKA CONNECTION



GYAO



若者サミット



公開月例会 OSAKA なにわサミット



大阪市長杯 大阪市大会 第38回わんぱく相撲



第31回なにわ淀川 花火大会



38th 2019 TOYP REPORT



メディア掲載情報



理事長インタビュー
日刊ケイザイ（1948号・2019年1月21日）



ワン・ワールドフェス
大阪日日新聞（2019年2月3日金曜日）

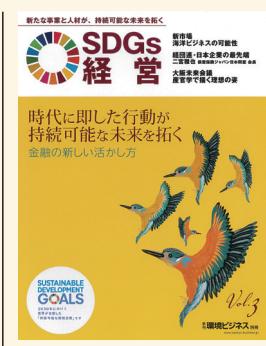
宣伝会議 WEB



SDGs経営 vol.2
(季刊環境ビジネス別冊)



未来の授業
私たちのSDGs探究BOOK（宣伝会議）



SDGs経営 vol.3
(季刊環境ビジネス別冊)



キッズアドベンチャー MBS NEWS



大阪市内で開催
小学生がG20サミットを体験

朝日新聞（2019年5月31日金曜日）



編集後記

2019年度、一般社団法人 大阪青年会議所は、小嶋隆文理事長の掲げる「善が循環する国際都市大阪の実現～他に善かれかしの精神で世界を変える～」をスローガンに掲げ、1年間を通じ様々な運動を展開致しました。

本年度は、東西二極としての大阪ではなく、アジアにおける大阪、世界における大阪として、個と個、都市と都市、地域と地域、国と国といったあらゆるレイヤーにおいて、他を自然と成り立たせようとする“善”が多層的につながり循環する国際都市大阪を実現して参りました。さらにSDGsの普及活動など、他に善かれかしの精神で善が循環する国際都市大阪に相応しい事業を数々実施致しました。

私たちの団体の理念、活動の目的・内容・成果、一人ひとりの心の奥底に宿る“善”を循環させる推力を一人でも多くの皆様にご理解いただくために、本書を編集させていただきました。

大阪青年会議所の活動にご共感いただき、今後ますます社会貢献活動の輪が広がれば幸いです。

最後に、多大なるご協力をいただきまして大阪市をはじめとする行政機関、関係諸団体、メディア、企業、市民の全ての方々に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

総務室 広報戦略委員会
委員長 長野 裕樹

企画・編集 総務室 広報戦略委員会
発 行 一般社団法人 大阪青年会議所
〒552-0007大阪市港区弁天1-2-30 オーク4番街401号室
TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163
<https://www.osaka-jc.or.jp>
発行日 2020年3月
制作 ato Design Office

ANNUAL REPORT 2019

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL OSAKA



<http://www.osaka-jc.or.jp/>